

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。



タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当教員	対象年次	学期	曜日・校時	開講期間
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005001	●英語コミュニケーションⅢ(2T7)	和	E	光野 百代	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005002	●英語コミュニケーションⅢ(2T8)	和	E	評 ローン悦子	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005003	●英語コミュニケーションⅢ(2P1)	和	E	奥田 阿子	2年,3年,4年	前期	木 2	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005004	●英語コミュニケーションⅢ(2M6)	和	E	吉村 宗司	2年,3年,4年	前期	火 2	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005005	●英語コミュニケーションⅢ(2M3)	和	E	香川 実成	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005006	●英語コミュニケーションⅢ(2M5)	和	E	山崎 有介	2年,3年,4年	前期	火 2	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005007	●英語コミュニケーションⅢ(2L3)	和	E	評 小笠原真司	2年,3年,4年	前期	木 2	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005008	●英語コミュニケーションⅢ(2E8)	和	E	上村 俊彦	2年,3年,4年	前期	金 2	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005009	●英語コミュニケーションⅢ(2M2)	和	E	評 西原真弓	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005010	●英語コミュニケーションⅢ(2M4)	和	E	川島 浩勝	2年,3年,4年	前期	火 2	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005011	●英語コミュニケーションⅢ(2T9)	和	E	前川 智子	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目		●英語コミュニケーションⅢ(2T9)	和	E					

## シラバス一覧

ラバス (教養教育科目)	教養教育 英語科目	20140590005012	ケーションⅢ(2L2)	和	E	評	村岡三奈子	2年,3年,4年	前期	木2	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005013	●英語コミュニケーションⅢ(2E5)	和	E	評	大坪有実	2年,3年,4年	前期	金2	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005014	●英語コミュニケーションⅢ(2L1)	和	E	評	藤内則光	2年,3年,4年	前期	木2	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005015	●英語コミュニケーションⅢ(2T10)	和	E		藤本ゆかり	2年,3年,4年	前期	月1	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005016	●英語コミュニケーションⅢ(2E7)	和	E		藤本ゆかり	2年,3年,4年	前期	金2	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005017	●英語コミュニケーションⅢ(2T6)	和	E		濱崎大	2年,3年,4年	前期	月1	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005018	●英語コミュニケーションⅢ(2D1・2D2)	和	E		濱崎大	2年,3年,4年	前期	月2	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005019	●英語コミュニケーションⅢ(2E6)	和	E		濱崎大	2年,3年,4年	前期	金2	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005020	●英語コミュニケーションⅢ(2M1)	和	E		奥田阿子	2年,3年,4年	前期	月1	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005021	●英語コミュニケーションⅢ(2T1)	和	E		濱崎大	2年,3年,4年	後期	月2	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005022	●英語コミュニケーションⅢ(2T2)	和	E		香川実成	2年,3年,4年	後期	月2	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005023	●英語コミュニケーションⅢ(2T3)	和	E		ローン悦子	2年,3年,4年	後期	月2	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005024	●英語コミュニケーションⅢ(2T4)	和	E		光野百代	2年,3年,4年	後期	月2	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005025	●英語コミュニケーションⅢ(2T5)	和	E		井石哲也	2年,3年,4年	後期	月2	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005026	●英語コミュニケーションⅢ	和	E		川島浩勝	2年,3年,4年	後期	火1	～

## シラバス一覧

目)	語科目		Ⅲ(2K1)								
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005027	●英語コミュニケーションⅢ(2K2)	和	E		光野 百代	2年,3年,4年	後期	火 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005028	●英語コミュニケーションⅢ(2K3)	和	E		大坪 有実	2年,3年,4年	後期	火 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005029	●英語コミュニケーションⅢ(2K4)	和	E		山崎 有介	2年,3年,4年	後期	火 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005030	●英語コミュニケーションⅢ(2L4)	和	E		山口 敦子	2年,3年,4年	後期	木 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005031	●英語コミュニケーションⅢ(2L5)	和	E		上村 俊彦	2年,3年,4年	後期	木 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005032	●英語コミュニケーションⅢ(2L6)	和	E		藤内 則光	2年,3年,4年	後期	木 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005033	●英語コミュニケーションⅢ(2P2)	和	E		上村 俊彦	2年,3年,4年	後期	木 2	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005034	●英語コミュニケーションⅢ(2F1)	和	E		濱崎 大	2年,3年,4年	後期	木 2	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005035	●英語コミュニケーションⅢ(2F2)	和	E		光野 百代	2年,3年,4年	後期	木 2	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005036	●英語コミュニケーションⅢ(2F3)	和	E		藤内 則光	2年,3年,4年	後期	木 2	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005037	●英語コミュニケーションⅢ(2E1)	和	E		濱崎 大	2年,3年,4年	後期	金 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005038	●英語コミュニケーションⅢ(2E2)	和	E		藤本 ゆかり	2年,3年,4年	後期	金 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005039	●英語コミュニケーションⅢ(2E3)	和	E		山田 健太郎	2年,3年,4年	後期	金 1	～
2014年度シラバス(教養教育科目)	教養教育-教養教育 英語科目	20140590005040	●英語コミュニケーションⅢ(2E4)	和	E		前川 智子	2年,3年,4年	後期	金 1	～



---

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005001	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T7)		
編集担当教員	光野 百代		
授業担当教員名(科目責任者)	光野 百代		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	光野 百代		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養B棟]B-15		
対象学生（クラス等）	2 T 7		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	言語教育センター		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	火曜 2 限		
授業の概要及び位置づけ	この授業は、英語の表現形式に親しみ、使い、練習しながら、英語的な思考・表現の理解を深め、読む、書く、聞く、話すというコミュニケーション技能を統合して高めることに重点をおきます。		
授業到達目標	コミュニケーション能力を習得するために、英語の論理で成り立った、基礎的な情報伝達パターンの理解を深め、相手の意見を把握し、自分の考えを相手に伝えるコミュニケーション技能を習得し、英語学習への関心と自信を持つことを目標とします。		
授業方法（学習指導法）	短い練習問題からはじめ、授業の進度に応じてニュース等の具体例の検討を通して、グループワークや発表を行います。 また、必要に応じて文法や語句の説明を行います。		
授業内容	授業のはじめに英語のコミュニケーション能力を習得するために重要な学習活動を概観し、英語の表現形式を確認しながら授業を進めます。 授業の進度に応じて、授業計画が変更になることもあります。		
	回	内容	
	1	introduction	
	2	Unit1	
	3	Unit1	
	4	Unit2	
	5	Unit2	
	6	Unit3 3 Step 小テスト	
	7	Unit3	
	8	復習	

	9	Unit4
	10	Unit4
	11	Unit5
	12	Unit5 3 Step 小テスト
	13	Unit6
	14	Unit6
	15	Unit6
	16	期末試験
キーワード	コミュニケーション能力、クリティカルシンキング、異文化理解	
教科書・教材・参考書	Thinking in English: Language Skills and Information Mapping for Clear Communication Cengage 1700 yen 英語の辞書 必要に応じてハンドアウトを適宜配布。	
成績評価の方法・基準等	E-Learning (20%)、授業活動・課題への積極的参加 (20%)、期末試験 (60%)	
受講要件 (履修条件)	基本的に授業には毎回遅れないように出席して下さい。授業を5回以上欠席した場合は成績評価の対象としません。また、2回の遅刻で1回の欠席とカウントしますので注意してください。 最初の授業は、この授業の計画を説明するので必ず出席してください。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 英語科目」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005002	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T8)		
編集担当教員	ローン 悦子		
授業担当教員名(科目責任者)	ローン 悦子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	ローン 悦子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-36(call2)		
対象学生(クラス等)	2T8		
担当教員Eメールアドレス	etsukolawn@hotmail.com		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業の前後、またはメールにて質問を受け付けます。		
授業の概要及び位置づけ	本授業では、実用的な英会話の表現を習得します。特にリスニングとスピーキングに力を入れながら基礎的かつ機能的な英語運用能力の向上を目指します。		
授業到達目標	授業を通して、英語コミュニケーション活動に慣れ親しみ、「使える」基礎的なコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。また洋画を英語で(音声、字幕共)より理解できるようにすることを目標とします。		
授業方法(学習指導法)	<p>授業では、テキストをベースに基礎的なコミュニケーションに役に立つような表現を学習していきます。また、新しい語彙、表現力を増やすためにauthenticな教材(配布物)、洋画を使用し(DVD視聴)、Readers' theater(朗読劇)などの活動を通して日本人学習者の苦手なイントネーション、単語のつながり方、母音の長音化などの改善を図り、ペアワーク、グループワークをより多く取り入れて授業を進めていきます。英語圏の文化、習慣の違いにも触れていきます。</p> <p>授業では、眠ったボキャブラリーを「使える」知識へと変えるために、受講生には、ペアワーク、グループワークを通して出来る限りスピーキングの機会を設けます。スピーキングの明瞭さを向上させるために、DVDの視聴、補助教材も適宜使用しReaders' theaterなどの活動を通して、イントネーション、単語のつながり方(リンキング)、母音の長音化などに焦点をあてて練習していきます。また、スピーキングの弱点を克服するために、自分の会話を録音して接続表現、学習した表現が適切に使われているか等確認しながら練習していきます。会話の練習を何度も繰り返すことにより、日本語と英語の発想の違いなどを体感してほしいと思います。テキスト付属のオンラインワークブック、Self-study CD-ROMを使用し予習、復習をして授業に臨んで下さい。また、本授業では、e-learning教材を課外学習として取り組んでもらいます(評価20%)。</p>		
	回	内容	
	1	第1回 4月7日 オリエンテーション、授業の進め方、Self-introduction、DVD視聴(2回目以降も継続的に視聴)	
	2	第2回 4月14日 テキストOnline Workbookの初期設定、 Relationships	

授業内容	3	第3回 4月21日 Relationships	
	4	第4回 4月28日 e-learning復習他	
	5	第5回 5月12日 Relationships	
	6	第6回 5月19日 ①3 Step 小テスト Readers' theater	
	7	第7回 5月26日 The environment	
	8	第8回 6月2日 The environment	
	9	第9回 6月9日 Readers' theater	
	10	第10回 6月16日 e-learning復習他	
	11	第11回 6月23日 Music	
	12	第12回 6月30日 ②3 Step 小テスト Music	
	13	第13回 7月7日 Music	
	14	第14回 7月14日 Readers' theater	
	15	第15回 7月28日 Review	
	16	第16回 8月4日 定期試験	
	キーワード	フレーズリーディング、シャドーイング、リピーティング、ディクテーション	
	教科書・教材・参考書	教科書としてJack C. Richards・David Bohlke 著 『Four Corners 3 Student's Book B with Online Workbook』 Cambridge University Press - ISBN:9781107668614を使用します。 *第1回目の授業までに、必ず生協の販売コーナーで各自購入して下さい。	
成績評価の方法・基準等	定期試験20%、授業中の発表、小テスト、課題、Readers'theater 50%、積極的な授業への参加10%、課外学習のe-learning 20%(3 Step Call System10%, PowerWords10%)を総合的に判断します。		
受講要件 (履修条件)	教科書、英語辞典 (電子辞書も可) を、毎回持参、また毎回授業に出席すること (時間厳守)。 学習した内容は、きちんと復習すること!		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	英語が話せると世界 (チャンス) が広がります。今できることをどんどんトライして下さい。		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005003	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2P1)		
編集担当教員	奥田 阿子		
授業担当教員名(科目責任者)	奥田 阿子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	奥田 阿子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	2P1		
担当教員Eメールアドレス	a-okuda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	質問受付時間：木曜日 1 限目 教員Eメールアドレス宛に質問も可		
授業の概要及び位置づけ	4年間の基礎となる英語力を身につけ、将来の学会発表等を想定した実践的な英語の運用能力を養成する。		
授業到達目標	情報収集を行ったものに対し、英語を用いて相手に伝えられるようになること。		
授業方法（学習指導法）	授業で扱う内容は授業前に学習し、内容理解をしておく。授業中は、その内容を発展させた活動を取り入れ、グループでの発表に備えた作業を行ってもらいながら英語の運用能力の養成を図ります。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション 教材の説明、学習方法の説明、成績についての説明 グループ作り アンケートの実施	
	2	グループワーク 学習方法について iPadの導入	
	3	個人/グループワーク NEWS番組、NEWSの記事を使用したフレーズの習得	
	4	個人/グループワーク NEWS番組、NEWSの記事を使用したフレーズの習得	
	5	個人ワーク 3回目、4回目の授業で学んでフレーズを使用したオリジナル記事の作成	
	6	UNITテスト グループワーク	

授業内容		5回目の授業で作成した記事に対し、グループでピアレビューを行う
	7	グループワーク ピアレビューした記事をもとに、グループで発表準備を行う
	8	グループワーク 発表
	9	グループワーク 発表の振り返りと他グループの評価
	10	個人/グループワーク 動画や資料を通して、意思力について理解し、自らの学習に応用できるか考える
	11	個人/グループワーク 動画や資料を通して、意思力について理解し、自らの学習に応用できるか考える
	12	UNITテスト グループワーク 10回、11回の授業で得た情報をもとに発表準備を行う
	13	グループワーク 10回、11回の授業で得た情報をもとに発表準備を行う
	14	グループワーク 発表
	15	グループワーク 発表の振り返りと他グループの評価
	16	期末テスト
キーワード		
教科書・教材・参考書		3-Step CALL System (e-learning) Power Up Your English with CNN News
成績評価の方法・基準等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト：20%</li> <li>・期末試験：30%</li> <li>・提出物、グループワークの成果物：30% (自分たちでの評価、他グループからの評価、教員からの評価等)</li> <li>・e-learning：20% (PowerWords 10%：単語の教材のレベルを1上げること 3-Step CALL System 10%：2回のUNITテスト)</li> </ul>
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		リスニング力を上げるためには、毎日少しの時間でも英語を耳にする時間を作りましょう！！



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005004	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2M6)		
編集担当教員	吉村 宗司		
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 宗司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 宗司		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	soshi@tea.ocn.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後（12:00～12:20／授業時の教室）		
授業の概要及び位置づけ	<p>対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語（米語） - 必要最低限の英語（米語） - を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。位置づけとしては、その能力促進に力点を置いたものと言える。</p>		
授業到達目標	<p>本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であったことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることが究極の目標であるが、英語国民と円滑なコミュニケーションを図ることができるレベルのリスニング力とスピーキング力を習得することが当座の目標である。また、並行してTOEICテストや各種英語検定試験などのリスニング部門で高得点をあげるとともに、特にTOEICテストのスコアでは600点を突破する実用英語運用能力を習得することを目標に掲げたい。</p>		
授業方法（学習指導法）	<p>まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性（音法）について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語（米語）の運用能力を習得するトレーニングを行っていく。なお、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事（ニュース）等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。</p>		
	<p>授業内容（概要）</p> <p>前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性（音法）の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行っていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。</p>		

	回 内容
授業内容	1 オリエンテーション（授業方針についての説明、教材の配布、アンケートほか）
	2 『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか？』—分析結果の報告と対策法について
	3 プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音/j/, /w/, /r/
	4 /r/と/l/の発音、子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説
	5 子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック
	6 3step小テスト、『音の連結』を聞き取るパターン（リエゾンの原則）、/t/, /d/, /g/の脱落、/t/, /d/のラ行音化
	7 連結しない場合の/l/, /h/の脱落、半母音/j/, /n/+t/と/n/+d/による音変化
	8 『閉鎖音の連続による脱落』、『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン
	9 『同化』を聞き取るパターン(1)（半母音/j/に絡む音変化①）
	10 『同化』を聞き取るパターン(2)（半母音/j/に絡む音変化②）、『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン
	11 『同化』を聞き取るパターン(3)（/n/の後続音への影響）
	12 3step小テスト、On an Airplane(1)
	13 On an Airplane(2)
	14 At an Airport(1)、洋楽を聞き取る
	15 At an Airport(2)、洋楽を聞き取る、まとめ
	16 定期試験 ※上記授業内容に関する補足 毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。なお、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。
キーワード	音法
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング - 聞き取るための入門講座（ハンドアウト教材） (2) American（ハンドアウト教材）
成績評価の方法・基準等	定期試験60%、受講態度、及び授業中の自発的な演習活動（授業中の発表等）20%、課外学習のe-learning20%（3 Step CALL10%、PowerWords10%）等の総合判定によって評価を行なう。なお、課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明する。
受講要件（履修条件）	配布された教材に対する予習復習は必須である。特に、毎時学んだ内容に関し、毎日のトレーニングを継続させることによって、実用英米語運用能力の促進が可能となる。したがって、復習に力点を置いた学習姿勢が望まれる。なお、授業時には発表活動（積極的かつ自発的な発言等）が求められるが、これをポイント制として成績評価の際に加算するため、自主的な姿勢で臨んでほしい。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	授業時には辞書必携です。授業時間内での学習のみで能力を促進させるには限界があるため、例えばNHK教育テレビやラジオの語学番組等を視聴、聴取するなど、とにかく毎日英語に接する時間を捻出することが望めます。英語に親しむことを習慣にできれば上達は必ず期待できます。限られた時間ですが、一緒にがんばりましょう!!



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005005	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2M3)		
編集担当教員	香川 実成		
授業担当教員名(科目責任者)	香川 実成		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	香川 実成		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-13		
対象学生（クラス等）	2M3		
担当教員Eメールアドレス	midvinter.jk@gmail.com		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	09043429702		
担当教員オフィスアワー	月曜日12:00～12:30、及びEメールにて（midvinter.jk@gmail.com）		
授業の概要及び位置づけ	英語を「聴いて」理解した表現を、真似て自分で「話して」みるという、自然な言語習得のパターンにもとづいて、英語コミュニケーション力を向上させることを目指します。また、リーディング活動の不足を補うため、エクストラとして英紙ガーディアンの記事を読み、設問に答える課題を毎回出します。		
授業到達目標	①数字、固有名詞、音の変化、リズム等にポイントを絞った上でのリスニング力の強化、 ②リスニングで覚えたフレーズを、スピーキング・ファンクションとして使えるようにする、 ③VOAの記事を効率よく正確に読めるようにする、 一以上を目標とします。		
授業方法（学習指導法）	授業内容の予習・復習を確認するアクティビティ（小テスト含む）を中心として、演習形式でおこないます。		
	回	内容	
	1	授業の進め方と課題の内容 Week 1: Weather（数字を聞き取る1）	
	2	Week 2: At the Post Office（数字を聞き取る2） VOA Extra Reading Activity 1	
	3	Week 3: Taking a Vacation（固有名詞を聞き取る） VOA Extra Reading Activity 2	
	4	Week 4: Shopping（カタカナ語を聞き取る） VOA Extra Reading Activity 3	
	5	Week 5: Hotel Check-in（子音＋母音の連結を聞き取る） VOA Extra Reading Activity 4	
	6	Week 6: Seeing the Doctor（アクセントを聞き取る） 3step小テスト(1)	

授業内容	7	Week 7: Business Lunch (イントネーションを聞き取る) VOA Extra Reading Activity 5
	8	Week 8: Office Equipment Maintenance (リズムを聞き取る) VOA Extra Reading Activity 6
	9	Week 9: Shopping Through the Internet (アドバイスの表現) Guardian Extra Reading Activity 7
	10	Week 10: Brunch (説得の表現) VOA Extra Reading Activity 8
	11	Week 11: The Transfer (可能性についての表現) VOA Extra Reading Activity 9
	12	Week 12: Fitness (興味を訊ねる表現) 3step小テスト(2)
	13	Week 13: "Lite" Foods (励ましの表現) VOA Extra Reading Activity 10
	14	Week 14: Alternative Medicine (好奇心を示す表現) VOA Extra Reading Activity 11
	15	Week 15: An Epidemic Disease (義務や必要の表現) VOA Extra Reading Activity 12
	16	定期試験
キーワード	スピーキング・ファンクション 言い換え反復 VOA	
教科書・教材・参考書	プリント教材を配付します。	
成績評価の方法・基準等	E-Learning : 20% 定期試験 : 40% 小テスト : 20% Guardian Extra Reading : 20%	
受講要件 (履修条件)	原則として全回出席することを単位認定の要件とします。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	VOA以外にも、英米のニュースメディアの健康・医療関連の科学記事を普段から読む習慣を身につけて下さい。スマホにRSSニュースリーダーを (feedlyがおすすめです) をインストールしておくとういと思います。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005006	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2M5)		
編集担当教員	山崎 有介		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 有介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 有介		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養B棟]B-15		
対象学生（クラス等）	(2M5)		
担当教員Eメールアドレス	pro-1223@i-next.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後		
授業の概要及び位置づけ	高度な医学分野に偏らず、一般的に新聞などで見受けられるような「健康」・「医療」に触れた内容で、できるだけ他分野に亘るトピックとなっている。健康の意味、健全さの維持・増進のためにできること他分野に亘って考えられることを通じ英語力の向上につなげたい。		
授業到達目標	無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEICや英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。		
授業方法（学習指導法）	語彙の確認、リスニングによる音声把握、音読による発音練習、英文の読解力と表現力を養う。		
授業内容	毎回一つずつUnitを進む。Dialog → Vocabulary → Reading → Comprehension Quiz → Rearrange the words to make sentences → Writing の流れで行う。Unitを3つ進む毎に小テスト(単語テストを含む)を実施する。		
	回	内容	
	1	Orientation & Quiz：これからの学習の準備	
	2	Unit 1 General ideas of health: What is health? Four different aspects	
	3	Unit 2 Cosmetic surgery: Reconstructing lives: A journey from chaos to calm	
	4	Unit 3 PTSD: Mental health disaster relief not always clear cut	
	5	Unit 4 Foreign health professionals: Japan needs more nurses and care-workers	
	6	Unit 5 Yoga: Yoga's spiritual balance may boost health 3 Step教材の小テスト(1)	
	7	Unit 6 Food/Diet: Do you count calories?	
	8	前半のまとめ（筆記試験を含む）	
9	Unit 7 Cancer: Clinical oncology: Global cancer rates expected to soar by 2030		

	10	Unit 8 Smoking: It's never too late to quit smoking
	11	Unit 9 Diabetes: Overcoming diabetes with diet and exercises
	12	Unit 10 Obesity/Child care: Body mass index may not reflect child obesity 3 Step教材の小テスト(2)
	13	Unit 11 iPS cells: The future of regenerative medicine and iPS cells
	14	Unit 12 Nurses' working conditions Need a nurse? You may have to wait
	15	Unit 13 Elderly care Preparing for a future that includes aging parents
	16	後半のまとめ (定期試験を含む)
キーワード	Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary	
教科書・教材・参考書	A Health Mind, A Healthy Body (Asahi Press)	
成績評価の方法・基準等	中間試験30%、定期試験30%、小テスト10%、課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL10%、Power Words10%)、授業への姿勢(発言、質問など)10%	
受講要件 (履修条件)		
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	予習・復習をきちんと行うこと。簡単であると思われることも確認を怠らないこと。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005007	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2L3)		
編集担当教員	小笠原 真司		
授業担当教員名(科目責任者)	小笠原 真司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小笠原 真司		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-35(call1)		
対象学生（クラス等）	(2L3)		
担当教員Eメールアドレス	ogasa-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部1階		
担当教員TEL	095-819-2094		
担当教員オフィスアワー	火4 水3 木3		
授業の概要及び位置づけ	英語でのコミュニケーション活動がスムーズにできるように、基礎的な英語の発音やリズム練習を行います。さらに、リスニングストラテジーに基づいたトレーニングを行い、いろいろな会話場面で十分コミュニケーション活動が行えるようにします。また、日本文化に関して、英語で説明できるような簡単なプレゼンの練習も行い、自信を持って英語を発信できるようにします。		
授業到達目標	テキストの中の重要な英語の構文は、授業中指定されたものはすべて覚えて頭の中に内在化し、自然と発話できるレベルまでにします。英会話レベルを超えて、少し長いレベルの英語も発話できるようにします。また、基本的なリスニングストラテジーを身につけてもらい、簡単な英語ニュースやダイアログなら、内容の概要を聞き取れるようにします。また、簡単なプレゼンを、自信をもって英語でできるようにします。		
授業方法（学習指導法）	演習形式で行います。指定されたテキストは、決められた範囲を予習しておくことが必要です。家庭でテキスト付属のCDを利用して、リスニングの問題の解答を作成して、授業に臨んでください。授業では、CDを用いて解答の確認をし、それらの英文の発話練習を行います。また、それらの英文を利用して、ダイアログを作成したり、テキストの英文を参考にして、簡単な日本文化に関するプレゼンの練習をします。また、2回程度、プレゼンテーション用のスピーチ用の英文の原稿を書いてもらい、ペアやグループでの英語によるスピーチ練習をします。		
	<p>毎回、授業の最初は、課題のe-learning 教材の小テストを行います。その後、CDを聞きながら、予習してきてもらったリスニング問題の解答を行います。その後、テキストを用いて、話すための大切な英語構文を整理しながらCDを用いて、英語を繰り返す練習を行います。これは、リピーティング練習といい、英語の構文を内在化する（身につける）には効果的な練習方法です。この練習を20分程度行い、その後、ダイアログを作成したり、日本文化を語るための簡単な英文を作成したりします。</p> <p>さらに、応用練習として、ペアやグループになってもらい、課題として作成したプレゼンテーション用の原稿を用いてのスピーチ練習を行います。もちろん、この原稿を書くための指</p>		

導も行います。

なお、e-learning 教材を課題学習として、授業外に行ってもらいますが、授業中も30分程度、3 Step と Power Wordsの学習をしてもらい、その内容の指導や小テストも行います。

この授業に関しては、決して受身的な態度で参加しないでください。授業の効果を上げるためにも、学生は極力欠席を避け、積極的に授業に参加してください。毎回、課題がでますので、なによりも家庭学習をきちんとすることが大切です。学生の積極的な取り組みを期待します。真剣に授業に参加し、家庭学習もきちんとすれば、必ず英語の力は向上します。がんばってください。

回	内容
1	オリエンテーション リピーティング練習体験 機能編：質問する、依頼する、確認する等 日本文化を語る 金沢 3 Step New York Lives, Power Words Level 5
2	リピーティング練習1 機能編：あやまる、感謝を表す、賛成する等 日本文化を語る 小笠原諸島 3 Step New York Lives, Power Words Level 5
3	リピーティング練習2 主語をつかひこなす 日本文化を語る 長崎県 3 Step New York Lives, Power Words Level 5
4	リピーティング練習3 疑問文パターン練習(1) 日本文化を語る 入学式 3 Step New York Lives, Power Words Level 5
5	リピーティング練習4 疑問文パターン練習(2) 日本文化を語る 焼酎 3 Step New York Lives, Power Words Level 5
6	リピーティング練習5 助動詞の気持ちをつかむ(1) 日本文化を語る 留学 3 Step New York Lives, Power Words Level 5 3 Step 小テスト
7	リピーティング練習6 助動詞の気持ちをつかむ(2) 日本文化を語る 漫画 スピーチ練習課題A作成指導 3 Step New York Lives, Power Words Level 5
8	リピーティング練習7 名詞節が含まれる文(1) 日本文化を語る 祇園祭り スピーチ練習課題A提出 3 Step New York Lives, Power Words Level 5
9	リピーティング練習8 名詞節が含まれる文(2) 日本文化を語る 九州 スピーチ練習課題Aを用いたペア練習 3 Step New York Lives, Power Words Level 5
10	リピーティング練習9 完了形の文 日本文化を語る 日本人のマナー スピーチ練習課題Aを用いたペア練習 3 Step New York Lives, Power Words Level 5
11	リピーティング練習10 進行形、受動態を含んだ文 日本文化を語る 野球 3 Step New York Lives, Power Words Level 5
12	リピーティング練習 比較表現 日本文化を語る ラーメン 3 Step New York Lives, Power Words Level 5 3 Step 小テスト
	リピーティング練習12 動詞のパターン練習 日本文化を語る 島津斉彬と集成館 スピーチ練習課題B作成指導 3 Step New York Lives, Power Words Level 5

授業内容

	13	
	14	リピーティング練習13 使役動詞のパターン 日本文化を語る 歌舞伎 スピーチ練習課題B提出 ペア練習 3 Step New York Lives, Power Words Level 5
	15	リピーティング練習14 知覚動詞のパターンテキスト 日本文化を語る 自動車産業 スピーチ練習課題B ペア練習 3 Step New York Lives, Power Words Level 5
	16	定期試験
キーワード	Repeating, Pair Work, Listening Strategies	
教科書・教材・参考書	教科書（テキスト）： Let's Make a Skit Presentation!（英宝社）¥1,800	
成績評価の方法・基準等	成績評価は、 ○定期試験50%、プレゼンペーパー20% 授業でのアクティビティ10% e-learning 20% で行います。 e-learning の内容に関しては、1回目の授業時に説明します。	
受講要件（履修条件）	全回出席が原則。教科書も必ず購入すること(ワークブックとして、時々提出してもらいます)。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	英語の力をつけるためには、授業の予習、復習に加えて、自分で英語学習を作りだし、英語の教材にチャレンジすることが大切です。長崎大学で推薦しているe-learning 教材（3 Step やパワーワーズ）やNHKテレビやラジオの英語講座などがおすすめです	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005008	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E8)		
編集担当教員	上村 俊彦		
授業担当教員名(科目責任者)	上村 俊彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	上村 俊彦		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）	2E8		
担当教員Eメールアドレス	yandi@sun.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	金曜日午前中（授業時間前後）		
授業の概要及び位置づけ			
授業到達目標	英文テキスト（CEFR B2レベル）を使い、英語コミュニケーション技能の習熟をはかる。		
授業方法（学習指導法）	英文テキストのリスニング・シャドウイング演習、テキスト課題に準拠した英語発信技能（Speaking・Writing）の演習を中心におこなう。		
授業内容	回	内容	
	1	Orientation Shadowingの方法	
	2	Success 英語の時制（過去、完了）	
	3	Difficult decision 条件節	
	4	Keeping busy 動詞+to-V, Ving	
	5	He said what? 話法	
	6	Changes コロケーション 3Step 小テスト	
	7	You can't do that! 助動詞	
	8	中間試験	
	9	Review 1 & 2	
	10	Influence 関係節	
	11	If I hadn't 仮定法過去	
	12	Past regrets 仮定法過去完了 3Step小テスト	

	13	Looking ahead 未来完了
	14	It's a hard life 英語の時制 (未来を意味する現在形)
	15	Women and men 句動詞
	16	最終試験 Review 3 & 4
キーワード	4 skills, CEFR	
教科書・教材・参考書	Craven, M. 2013. Breakthrough Plus 4. Macmillan	
成績評価の方法・基準等	クラス活動 80% e-learning 20%	
受講要件 (履修条件)	クラス初回に、USB (初期化済み、氏名記入済み) を持参してください。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	毎回、英文テキスト教材 (USB媒体で配布予定) の音読練習をして授業に参加すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005009	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2M2)		
編集担当教員	西原 真弓		
授業担当教員名(科目責任者)	西原 真弓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西原 真弓		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-31		
対象学生（クラス等）	2M2		
担当教員Eメールアドレス	nishihara@kwassui.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業の前後、それ以外はメールで連絡をしてください		
授業の概要及び位置づけ	Discover Magazine 中の医療コラム "Vital Signs" から厳選された医療関係の記事を読む。関連医療語彙を学習しながら、読んだものを要約したり自分の意見を英語で表現する。		
授業到達目標	医療関係の記事を読めるようになる。医療関係の語彙を修得する。 医療に関連する記事の内容の要約をしたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。以上を目標とする。		
授業方法（学習指導法）	予習をしてきたテキストの内容を英語で質疑応答しながら、内容把握の確認をしていく。授業内ではできるだけ英語を使うような機会を設ける。また、毎回単語や表現の小テストを行い、表現の定着をはかる。		
	回	内容	
	1	Chapter 1 And Down She Goes(1)	
	2	Chapter 1 の復習テスト Chapter 2 And Down She Goes (2)	
	3	Chapter 2 の復習テスト Chapter 3 Simple Sickness Gone Awry(1)	
	4	Chapter 3 の復習テスト Chapter 4 Simple Sickness Gone Awry (2)	
	5	Chapter 4 の復習テスト Chapter 5 Confusion That Comes And Goes(1)	
	6	Chapter 6 confusion That Comes And Goes (2) 3 step 小テスト	
	7	Chapter 6 の復習テスト Chapter 7 Brain Got Your Tongue? (1)	

授業内容	8	Chapter 7 の復習テスト Chapter 8 Brain Got Your Tongue? (2)
	9	Chapter 8 の復習テスト Chapter 9 Those Who Know Us Best (1)
	10	中間テスト
	11	Chapter 10 Those Who Know Us Best (2)
	12	Chapter 11 Treating Disease In The Big Easy (1) 3 step 小テスト
	13	Chapter 11 の復習テスト Chapter 12 Treating Disease In The Big Easy (2)
	14	Chapter 12 の復習テスト Chapter 13 Bugs Are Crawling In My Skin
	15	Chapter 13 の復習テスト Chapter 14 Attacked From Within
16		
キーワード	医療、英語コミュニケーション	
教科書・教材・参考書	大下晴美、Sean Chidlow, 森茂著 『Signs and Symptoms: True Stories By Doctors 1』 (南雲堂)	
成績評価の方法・基準等	中間テスト 40%、毎回の小テスト 20%、提出課題10%、出席状況及び授業参加態度 10%、 課外学習 e-learning 20% (3 step 10%, Power Words 10%)	
受講要件 (履修条件)		
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	英語コミュニケーションの授業なので、授業内での積極的な参加が大切です。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005010	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2M4)		
編集担当教員	川島 浩勝		
授業担当教員名(科目責任者)	川島 浩勝		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	川島 浩勝		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生（クラス等）	(2M4)		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	長崎外国語大学 3階334研究室		
担当教員TEL	095-840-2000 (内線334)		
担当教員オフィスアワー	授業終了後、質問を受けつける。また、話し合いにより、後日、時間を設定する場合がある。		
授業の概要及び位置づけ	英語によるコミュニケーションを円滑に行うのに必要とされる口語英語の理解能力の基礎を作る。		
授業到達目標	本授業の到達目標は、1) 口語英語のスピード・イントネーション・リズムに対応できる、2) リスニングに対応できる語彙数を増やす、3) 英語のミニマルペアーの聞き分けができる、4) 英語のミニマルペアーを正しく発音できる、5) 英語の連続音を正しく理解し、聞き取ることができる、である。		
授業方法（学習指導法）	様々なタスクを用い、リスニングにフォーカスをあてた授業を行う。受講者が自己のリスニング能力を客観的に把握・理解できる場面が用意され、同時に、リスニングの学習法を学べるように授業が組み立てられている。なお、シラバスの細部は状況に応じて変更することがある。		
授業内容	回	内容	
	1	授業方針の説明・英語力診断テスト	
	2	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと口語英語の理解・整理1	
	3	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと口語英語の理解・整理2	
	4	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと口語英語の理解・整理3	
	5	アメリカのドラマを題材にしたリスニングとリスニングに対応した語彙力のアップ1	
	6	アメリカのドラマを題材にしたリスニングとリスニングに対応した語彙力のアップ2, 3Step 小テスト	
	7	アメリカのドラマを題材にしたリスニングとリスニングに対応した語彙力のアップ3	
	8	これまでの授業のまとめ	



	9	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと母音・子音のミニマルペアーの整理・理解1
	10	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと母音・子音のミニマルペアーの整理・理解2
	11	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと母音・子音のミニマルペアーの整理・理解3
	12	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解1, 3Step 小テスト
	13	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解2
	14	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解3
	15	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解4
	16	学期末試験
キーワード	口語英語・リスニング・語彙力・ミニマルペアー・連続音	
教科書・教材・参考書	基本的にはプリント教材を配布するが、第1回目の授業で実施する英語力診断テストの結果によっては、副教材を購入する場合がある。	
成績評価の方法・基準等	基本的に、E-Learning 20%・レポート20%・小テスト&提出物30%・期末試験30%とする。なお、欠席1回でマイナス7点（正当な理由がある場合は考慮する）となる等の「授業ルール」があるので注意すること。詳細は、第1回目の授業で配布する資料を参照すること。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	英語学習の意義を再度考え、課題に意欲的に取り組んで下さい。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005011	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T9)		
編集担当教員	前川 智子		
授業担当教員名(科目責任者)	前川 智子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	前川 智子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-14		
対象学生（クラス等）	(2T9)		
担当教員Eメールアドレス	t-mae@asca-iso.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控え室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後10分		
授業の概要及び位置づけ	自分のこと（詳しい自己紹介）や日常生活（週末のこと、病気や怪我をしたときのこと、休暇中のことなど）を英語で会話したり、人前で大きな声で話せるようになることがねらいである。		
授業到達目標	自分のこと（出身、クラブ、アルバイト、仕事、趣味、旅行）や家族のことを英語で詳しく書き、人前で堂々と話すことが出来る。週末や休暇中の出来事などを英語で書き、人前で堂々と話すことが出来る。また、その過程において、英語の読解力・語彙力、発音・イントネーション、リスニング力が上達する。		
授業方法（学習指導法）	コース前半では詳しい自己紹介をするための準備(表現を覚えるなど)と会話練習を行う。後半では日常会話文を学びながら、毎回ペアやグループ内でスキットを読みあったり、週末の出来事などを話す練習を行う。スピーチの準備として、教科書のスキットを元にエッセイを書き（宿題）、それを応用して自分自身の出来事を英語で書く（宿題）。更に、それを暗記してクラスで発表する（スピーチ）。コースを通して一人5回の短いスピーチを行う。教員は原則として英語で指導するので、説明を聞く際にも集中しておくこと。学生もペアやグループ内で話すときも出来るだけ英語で話すように心がけ、授業時間全体を英語コミュニケーションの時間としたい。overlapping, shadowing を行い、英語らしい発音・イントネーションを習得すると共に、リスニング力も向上させる。		
	第1回 Orientation 教科書販売、授業の進め方、スピーチの仕方など / Skit 1: Nice to Meet You, Skit2: Family (会話) Junの自己紹介文の書き方、JunとHiroの自己紹介文・自分の自己紹介文を書く（宿題） 第2回 Skit 3~6: Clubs and Jobs、Hobbies、Traveling、Food and Cooking、更に長いJunとHiroの自己紹介文・自分の自己紹介文を書く（宿題） 第3回 JunやHiroの自己紹介文・自分の自己紹介文の音読練習、Skit 1～7練習、スピーチの仕方について 第4回 <自分の自己紹介文の最終原稿（パソコンうち）提出> スピーチ1：自己紹介（一班） 第5回 スピーチ1：自己紹介（二班） Skit8: What's New?、Skit9: How Was Your		

授業内容	<p>Weekend? 会話練習、会話文からケン、リカ、ナオト、カオルのことについて（宿題）</p> <p>第6回 リスニング小テスト（1）、Skit 8, 9 の練習、会話練習。上記宿題の音読練習。自分の週末などについて書く（宿題）</p> <p>第7回 会話練習、スピーチ練習</p> <p>第8回 スピーチ2：週末についてなど（1分以上、全員）Skit 10 を読んで、ヤスとミカについて書く（宿題）</p> <p>第9回 Skit 10: What's Wrong with You? 会話練習。上記宿題の音読練習。自分や家族が病気・怪我などをした時のことを書く（宿題）</p> <p>第10回 スピーチ3：病気・怪我・失敗談など（1分以上、全員）Skit 12をを読んで、マリとユウタについて書く（宿題）</p> <p>第11回 Skit 12: We're Having a Party 会話練習。上記宿題の音読練習。パーティや楽しかったイベントなどについて書く（宿題）</p> <p>第12回 リスニング小テスト（2）、Skit 11: What Are You going to Do in the holiday? 会話練習。Skit11をを読んで、タロウとアキについて書く（宿題）</p> <p>第13回 スピーチ4：パーティー、イベント、楽しい話など（1分以上、全員）夏休みの計画、将来の計画などについて書く（宿題）</p> <p>第14回 &lt;スピーチ5の原稿（パソコンうち）提出&gt; スピーチ練習</p> <p>第15回 一班：スピーチ5：夏休みの計画、将来の計画などについて（3分以上） 二班：スピーチ観賞と評価（評価レポート提出）</p> <p>第16回 二班：スピーチ5：夏休みの計画、将来の計画などについて（3分以上） 一班：スピーチ観賞と評価（評価レポート提出）</p>
キーワード	Speaking
教科書・教材・参考書	「English Communication in the Classroom」（開文社出版、前川智子編著）
成績評価の方法・基準等	<p>E-Learning（リスニング小テストを含む）20%</p> <p>スピーチ5回 60%（15x2、10x3）</p> <p>課題提出・授業中の活動 20%</p> <p>（提出課題は期限厳守のこと）</p>
受講要件（履修条件）	<p>原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。5回以上欠席すると単位は取得できない。スピーチ発表が5回あるので欠席しないように。スピーチ発表日に病気などやむを得ない理由で欠席した場合は翌週の授業で追試験の機会を設けるが、最終発表欠席は正式な手続きが必要となる。30分以上の遅刻・早退は原則として欠席扱いとする。</p>
備考（URL）	
学生へのメッセージ	<p>毎回宿題を出すので、それを行った上で授業に臨むこと。提出課題は授業開始前に提出のこと。</p>



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005012	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2L2)		
編集担当教員	村岡 三奈子		
授業担当教員名(科目責任者)	村岡 三奈子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村岡 三奈子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生 (クラス等)	(2L2)		
担当教員Eメールアドレス	muraoka@n-junshin.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL	095-846-0084		
担当教員オフィスアワー	随時		
授業の概要及び位置づけ	映画を教材として、場面や状況に応じた生きた英語表現を身につけることを目指す。		
授業到達目標	基本的構文および文法事項に留まらず、生きた英語表現や文化的知識を身につけることが出来る。		
授業方法 (学習指導法)	原則として、毎週、テキストを1章ずつ進めながら、英語の4技能をバランスよく学習する。		
授業内容	回	内容	
	1	4月10日：イントロダクション	
	2	4月17日：第1章	
	3	4月24日：第2章	
	4	5月1日：第3章	
	5	5月8日：第4章	
	6	5月15日：第5章 / 3-step 小テスト	
	7	5月22日：第6章	
	8	5月29日：第7章	
	9	6月5日：第8章	
	10	6月12日：第9章	
	11	6月19日：第10章	
	12	6月26日：第11章 / 3-step 小テスト	
	13	7月3日：第12章	

	14	7月10日：第13章
	15	7月17日：プレゼンテーション
	16	7月24日：定期試験
キーワード	English Communication	
教科書・教材・参考書	Music of the Heart (EIHOSHA)	
成績評価の方法・基準等	出席・授業態度：10% 小テスト：10% 課題：10% 定期試験：50% 課外学習の e-learning：20% (詳細は第1回目の授業で説明)	
受講要件 (履修条件)	特になし	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	毎回、スクリプトを配布しますので、次週の予習として丁寧に読んでおいてください。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005013	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E5)		
編集担当教員	大坪 有実		
授業担当教員名(科目責任者)	大坪 有実		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大坪 有実		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-31		
対象学生（クラス等）	2E5		
担当教員Eメールアドレス	r_otsubo@hotmail.co.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	非常勤講師控室 金曜日 12:00～12:45		
授業の概要及び位置づけ	リスニング演習を通し、英語の音に慣れ、リーディングを通し、日米間の大学生活や文化の違いを認識する。		
授業到達目標	リスニングのポイントを抑え、より英語を聞き取ることができるようになる。また、動詞のイメージ理解を通して、表現力の幅を広げることができるようになる。		
授業方法（学習指導法）	自分のリスニング力を確認した上で、リスニングのポイントを抑え、再度リスニング力の確認をする。リーディングは予習してきた英文解釈を口頭発表してもらい、文法解説等を加えていく。		
授業内容	リスニング演習で英語の音に慣れる。リーディングから日米の大学生活や文化の違いを学ぶ。		
	回	内容	
	1	Introduction 授業の進め方、諸注意等	
	2	On-Campus Facilities	
	3	Classroom Expectations	
	4	Tutoring	
	5	A Blind Date Disaster	
	6	3 Step 小テスト Marriage Announcement	
	7	Chemistry	
	8	Pre-Wedding Parties	
	9	Driving in the United States(1)	
10	Driving in the United States(2)		

	11	Pastime
	12	3 Step 小テスト Relaxing Time
	13	Words of Encouragement
	14	Extra Reading(1)
	15	Extra Reading(2)
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	Cultural Encounters センゲージラーニング株式会社 ￥1,900+税	
成績評価の方法・基準等	e-learning 20% 定期試験（積極的な授業への取り組み含む）80%	
受講要件（履修条件）	原則的に、全回授業出席を単位認定の要件とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	ABC News Shower等、英語のニュースを観ることがこの授業の内容の理解を深めるために有用である。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005014	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2L1)		
編集担当教員	藤内 則光		
授業担当教員名(科目責任者)	藤内 則光		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤内 則光		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-45(call3)		
対象学生（クラス等）	(2L1)		
担当教員Eメールアドレス	fujiuchi@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤控室		
担当教員TEL	095-840-2000 (Ext 335)		
担当教員オフィスアワー	外語大335研究室にて随時・要確認		
授業の概要及び位置づけ	この授業では、伝達手段としての英語の基本的な技能と、特に読解能力と聴取能力の相関関係を解説した後、読解と聴解の能力を総合的に向上させる訓練を行う。最終的には、「読んで分かる英語」から「聞いて分かる英語」へと、受講生の英語力を向上させる。 また、この授業ではプロの教師の心構えも身につけていただきたい。		
授業到達目標	CNN放送を聞いて内容を説明できる程度の英語運用能力の獲得を目的とする。		
授業方法（学習指導法）	CALL教室の機材を適宜活用し、与えられた英語のテキストの聴解に音読を加えた訓練方式。		
	教科書は主教材と副教材の二種類を使用する。 授業開始当初は副教材を用い、基本的な英語の聴解とディクテーション、適宜発音指導を行い、採点結果を出席した証拠として回収するとともに、提出物として平常点に加算する。 主教材は、主に現代日本の時事に関するNHK BSのニュースを題材にしたDVD教材。第1回目のオリエンテーションにて受講生のリクエストを募り、以降、そのリクエストどおりに授業を進行させる。教科書にある英作文を課題として課し、提出させる。受講生は主教材付属のDVDを見て、事前に予習をすること。 授業の進行が明確に分かっているので、欠席者は次の授業の準備をすること。DVDを見る装置が自宅にない場合でも、図書館を利用するなどの方策を自分で考えること。教科書は設問に解答するだけでなく、本文の音読を予習や復習に取り入れること。1回視聴して内容を理解出来る程度の復習を前提にします。授業も最終試験も難しいので、常に復習を怠らないように。また、最終試験の評価割合が少ないので、時間外の学習を怠らないように。 定期試験 16回目開講時		
	回	内容	
	1	4/10 オリエンテーション、座席決定、教科書販売、期末試験の仕様発表、講義の心得確認	
	2	4/17 副教材 Unit 1、主教材 教科書 Unit 1、新章へ	
	3	4/24 副教材 Unit 3、主教材 教科書 1課、新章へ	



授業内容	4	5/1 副教材 Unit 4、主教材 教科書 1 課、新章へ
	5	5/8 副教材 Unit 5、主教材 教科書 1 課、新章へ
	6	5/15 副教材 Unit 6、主教材 教科書 1 課、新章へ
		3-Step CALL 小テスト1
	7	5/22 副教材 Unit 7、主教材 教科書 1 課、新章へ
	8	5/29 副教材 Unit 8、主教材 教科書 1 課、新章へ
	9	6/5 副教材 Unit 9、主教材 教科書 1 課、新章へ
	10	6/12 副教材 Unit 11、主教材 教科書 1 課、新章へ
	11	6/19 副教材 Unit 12、主教材 教科書 1 課、新章へ
	12	6/26 副教材 Unit 13、主教材 教科書 1 課、新章へ
		3-Step CALL 小テスト2
	13	7/3 副教材 Unit 14、主教材 教科書 1 課、新章へ
	14	7/10 副教材 Unit 21、主教材 教科書 1 課
	15	7/17 副教材 Unit 24、主教材 教科書 1 課
	16	7/31 定期試験 90分、提出物最終締め切り
	キーワード	
教科書・教材・参考書	主教材：What's on Japan 8(金星堂) 副教材：Campus Listening(成美堂)	
成績評価の方法・基準等	<p>全て主教材より</p> <p>定期試験60%(単語理解8%、本文内容ディクテーション 14% (部分点あり)、内容理解28%、課題英作文 10% (部分点あり))</p> <p>平常点20%(英作文提出と副教材解答結果提出)</p> <p>課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。</p>	
受講要件 (履修条件)	教科書を購入し、英和辞典を必ず携行して授業に臨むこと。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	DVDを見て、放送を一通り音読で真似てみる程度の事前訓練をしてください。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005015	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T10)		
編集担当教員	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(科目責任者)	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤本 ゆかり		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）	(2T10)		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-819-2078(全学教育事務室)		
担当教員オフィスアワー	月曜日 12時00分より		
授業の概要及び位置づけ	特色ある内容の教科書を通して、英語の基本的な能力をさらに伸ばし、英語での表現力を高める。リピーティングという方法により、英語の理解度を高めると同時に、話す為・書く為の英文を作り上げる能力と技能を伸ばす。また、この方法を繰り返して練習することで、聴く力を養う。総合的な英語の技能を定着させ、さらに向上させる。また、英文法の復習を行い、英語の基礎及び応用力を身に付ける。		
授業到達目標	自分が言いたいことを英語で表現するための基本的な能力を養うことができる。英文を英語で理解し（読む・聴く）、英語で考えて英語を使う（話す・書く）能力の基本を養成することができる。発音の改善ができる。応用的な文法の運用ができるようになる。各自で目的を再認識し、英語の学習に対する意欲を持てるようになる。		
授業方法（学習指導法）	CDを用いながら、リピーティングを通して、ダイアログを声に出して読む訓練を行い、覚え、話す能力へと発展させていく。発音の指導を行うので、積極的に活動に参加する。テキストに解答を書き込んで、理解を確かなものにする。文法事項を説明する。英語習得の方法を詳しく指導する。		
	教科書は、リピーティングの方法を用いた、特色あるものである。 リピーティングを中心にを行うことで、スピーキングとリスニングの能力を養う。 予習の準備段階を踏んだうえで、Lecture（あらかじめ読んでおくこと。）で英文法を復習し、CDを聴いてフレーズごとにリピーティングをし、文法に留意しながらダイアログを覚える。次に再びCDを聴いて、会話の表現をつくりあげるべく、リスニングをする。さらに、自分で英作文をしてダイアログを作成し、最後にライティングとして、日本に関する英文を書く活動をする。（教科書の問題部分に空白の箇所が無いように書き込んでいく。） また、英語の習得の方法について、詳細な指導を行う。  毎回の授業には、必ず予習をして臨みましょう。英単語の意味を調べ、英作文を自分で考えておきます。また、聴く・話すという能力は、毎日欠かさず練習しなくては向上しないので、テキスト付録のCDを用いて、自宅で予習と復習を必ず行ってください。自学が非常に重要な意味を持ちます。継続が大切であり、各自目標を定めて努力することを期待します。		

授業内容	回	内容
	1	4月 7日 導入・授業内容の説明
	2	4月14日 Unit 1
	3	4月21日 Unit 2・3
	4	4月28日 Unit 4
	5	5月12日 Unit 5
	6	5月19日 Unit 6
	7	5月26日 Unit 7
	8	6月 2日 Unit 8
	9	6月 9日 Unit 9
	10	6月16日 Unit 10
	11	6月23日 Unit 11
	12	6月30日 Unit 12
	13	7月 7日 Unit 13
	14	7月14日 Unit 14
	15	7月28日 Unit 15
	16	8月 4日 定期試験
キーワード	リピーティング / スピーキング / リスニング / ダイアログ / 英文法 / 英作文	
教科書・教材・参考書	Let's Make a Skit Presentation! 『ダイアログ中心のリスニング・スピーキング』（小笠原真司 他：英宝社） 英和辞典（電子辞書）を必携すること。	
成績評価の方法・基準等	定期試験の成績を80%、課外学習のe-learning20%（3 Step CALL 10%、Power Words10%）を基準とします。 定期試験を筆記で行います。課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。 【3stepの小テスト実施日程】授業の原則6回目、12回目です。 また、受講中の活動や態度を非常に重視しますので、注意しましょう。	
受講要件（履修条件）	授業には、全回出席することを期待します。必ず予習をして臨みましょう。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	授業には必ず予習をして臨んでください。英単語の意味をあらかじめ調べて、文章の大意をつかみ、テキストの問題も解いておきましょう。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005016	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E7)		
編集担当教員	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(科目責任者)	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤本 ゆかり		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生（クラス等）	(2E7)		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-819-2078 (全学教育事務室)		
担当教員オフィスアワー	金曜日 2時30分より		
授業の概要及び位置づけ	<p>基本的で実用的な英会話の表現を習得し、表現の基礎の定着を図る。話すことと聴くことの技能を身に付ける。暗記をするのみではなく、構文や文法に留意して、基本的な理解力を確かなものにする。語彙を増やし、文法を理解し、表現の感覚を磨く。対話力を向上させ、自分の言いたいことを表現できる豊かな表現力へと応用できる能力を養う。自分の言いたいことを表現できるコミュニケーションに対する意欲を持ち、自主的に話せるようになることを目的とする。英語の歌を通して、英米の文化を学ぶ。</p>		
授業到達目標	<p>基本的・実用的な英文や英会話の表現を覚え、話すことができる。語彙力を増強することができる。英語の構文・文法・表現について理解を深めることができる。美しい発音ができ、リスニングの能力を養う。表現を声に出して述べるができる。基礎を固めた上で、自分が言いたいことを表現できるようになる。語彙を増やし、文法を身に付け、表現の応用ができるようになる。英会話とコミュニケーションに対する関心・興味を持ち、各自が目標を定めて積極的に学習の場を求めていく態度を養う。英語の歌や日常会話を通して、歌の背景や、英米の文化や歴史に対する理解を深めることができる。また、各自の現在の能力をさらに向上させるようにする。</p>		
授業方法（学習指導法）	<p>英語のフレーズの詳細な解説を行い、文法と構文、及び表現の指導をする。このことによって、英文を容易に覚えられるようになる。発音の練習をし、表現を声に出して発音する。声に出すことで覚えた英語のフレーズを使用してみる。リスニングの指導を行う。CDを活用し、何度も聴き、リピーティングを行うことで、スキルの定着を図る。</p>		
	<p>英米の歌にみられる英語表現を中心として、重要な英文について、CDを聴きながら、主要な表現・構文・文法の指導を行う。構文や文法を理解することが、会話での表現の習得においても、容易にして有効であるというアプローチを進めていく。英単語の発音の仕方を指導し、練習を行う。文全体の発音についても指導と練習を繰り返し行い、定着を図る。さらに、ダイアログの表現を言えるように練習をし、覚え、ひいては話す能力を養う基礎を固めていく。また、話す能力と聴く能力は表裏一体であるという認識に基づいて、リスニングの方法を説明し、実践してみる。英米の歌とその背景について解説する。歌を通して、英会話とコミュニケーションに対する意欲をさらに持てるように指導していく。</p>		

	回	内容
授業内容	1	4月11日 導入・授業内容の説明
	2	4月18日 UNIT 4 Puff (The Magic Dragon)
	3	4月25日 UNIT 5 Unchained Melody
	4	5月 2日 UNIT 6 Over the Rainbow
	5	5月 9日 UNIT 8 Tennessee Waltz
	6	5月16日 UNIT 10 Dreaming of Home and Mother
	7	5月23日 UNIT 11 Long, Long Ago
	8	5月30日 UNIT 12 Grandfather's Clock
	9	6月 6日 UNIT 13 The Last Rose of Summer
	10	6月13日 UNIT 14 Home on the Range
	11	6月20日 UNIT 15・16 Mollie Darling / I've Been Working on the Railroad
	12	6月27日 UNIT 17・18 Foster's Songs (Old Black Joe / Old Folks at Home)
	13	7月 4日 UNIT 18・19 (・20) Foster's Songs (Old Folks at Home / My Old Kentucky Home / Beautiful Dreamer)
	14	7月11日 UNIT 25・26 Twin Songs (Londonderry Air / Danny Boy)
	15	7月18日 UNIT 26・27 Danny Boy / Aloha Oe
	16	8月 1日 定期試験
キーワード	英米の歌 / 文法と発音の強化 / 英語表現の容易な定着 / コミュニケーションのための文化の理解	
教科書・教材・参考書	『英米人・日本人のこころの歌』(CD付き) (小笠原真司 / ウィリアム・コリンズ: 英光社) 英和辞典(電子辞書)を必携すること。	
成績評価の方法・基準等	定期試験80%、課外学習の3-learning 20% (3 Step CALL 10%、Power Words 10%)を基準とします。 定期試験を筆記で行います。 課外学習のe-learningに関しては、第1回目の授業の際に説明します。 【3stepの小テスト実施日程】授業の原則6回目、12回目です。 また、受講中の活動や態度を非常に重視します。	
受講要件(履修条件)	授業には全回出席しましょう。発音など声を出しての活動は、積極的に参加することを期待します。必ず予習をして臨んで下さい。	
備考(URL)		
学生へのメッセージ	必ず予習をして授業に出席して下さい。あらかじめ英単語の意味を調べて、大意をつかんでおきましょう。	



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 英語科目」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005017	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T6)		
編集担当教員	濱崎 大		
授業担当教員名(科目責任者)	濱崎 大		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	濱崎 大		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-22		
対象学生（クラス等）	2T6		
担当教員Eメールアドレス	mohican007@hotmail.com 欠席報告はメールではなく、後日届けを提出してください。		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL	単位に関するお問い合わせは、事務を通して行ってください。		
担当教員オフィスアワー	非常勤講師室在中可 月・金 昼休み		
授業の概要及び位置づけ	英語でコミュニケーションを成立させるための様々なスキルを考え、これを実践します。今それぞれが持てる英語力で、最大限のコミュニケーション能力を習得出来るようにします。頭で英文を思い描くために、核となるイメージを養っていきます。また、Group Workを通して、コミュニケーションも豊かにとれるよう積極性を持てるようにします。		
授業到達目標	簡単な日常英会話を躊躇なく運用出来るようにします。		
授業方法（学習指導法）	理解ある同じ受講生とのコミュニケーションは、プレッシャーを軽減する利点があります。受講生同士ペアやグループを組み、その落ち着いた状況で教科書の会話例をもとにテーマに沿って会話を発展させていきます。		
	Text内の、各UnitにはTopicが設けられて基本的なConversationが成されています。そのTopicとConversationを基礎に各自、各グループで考えられるSituationを想定して、Conversationを展開して行きます。日本人に独特な、発音を出来るだけNativeに近いものに修正し、これまで学んできた英語をPracticalなものになるような授業にいたします。 下記には理想的な進行を計画として立てておりますが、クラスの能力によっては進行を遅くする場合も想定されます。		
	回	内容	
	1	第1回 Introduction	
	2	第2回 Unit 1 言語機能別英会話 (1) Group Making	
	3	第3回 Unit 2,3 言語機能別英会話(2),主語として便利なwe,you,they Mid-Term Examinationへ向けてTopicを決定	
	4	第4回 Unit4,5 疑問文のパターン(1),(2)	
	5	第5回 Unit 6,7 助動詞を使った文(1),(2)	

授業内容	6	第6回 Preparation for the Mid-Term Examination、3step 小テスト	
	7	第7回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)	
	8	第8回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)	
	9	第9回 Unit 8 名詞節を使った文(1) Group Making	
	10	第10回 Unit 9 名詞節を使った文(2) Final Examinationに向けてTopicを決定	
	11	第11回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文	
	12	第12回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文、3step 小テスト	
	13	第13回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！	
	14	第14回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！	
	15	第15回 Final Examination, Group Presentation	
	16	第16回 Final Examination, Group Presentation	
	キーワード	脱受験英語 イメージからの英語表現へ	
	教科書・教材・参考書	Let's Make a Skit Presentation (英宝社) 各自持っている参考書、辞書(英和、和英) この授業では、辞書はかなり重要です。	
	成績評価の方法・基準等	Class Attendance and Participation: 15% 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。 Mid-Term Examination 25% Final Examination 40%	
	受講要件(履修条件)	全講義出席が原則。ただし、正当な理由で欠席する場合は個人指導を行う。(課外クラブ活動に関しては正当な理由とは認められません。) 講義、演習の妨害行為は大人としてのモラルをもって自重してください。(スマートフォンの操作等) 目に余る場合は、退室及び辞退を申し入れます。 欠席回数1/3以上は期末試験の受験資格がなくなります。	
	備考(URL)		
学生へのメッセージ	中間、期末テストはGroup Workになり、Group内でのコミュニケーションも非常に重要になります。無断欠席、遅刻などは他の受講者にも非常に迷惑をかけることになるので、必ず責任ある態度で講義に望んでください。特に再履修の学生は、この点をよく考えてから決断してください。		



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 英語科目」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005018	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2D1・2D2)		
編集担当教員	濱崎 大		
授業担当教員名(科目責任者)	濱崎 大		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	濱崎 大		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-22		
対象学生 (クラス等)	2D1・2D2		
担当教員Eメールアドレス	mohican007@hotmail.com 欠席報告はメールではなく、後日届けを提出してください。		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL	単位に関するお問い合わせは、事務を通して行ってください。		
担当教員オフィスアワー	非常勤講師室在中可 月・金 昼休み		
授業の概要及び位置づけ	英語でコミュニケーションを成立させるための様々なスキルを考え、これを実践します。今それぞれが持てる英語力で、最大限のコミュニケーション能力を習得出来るようにします。頭で英文を思い描くために、核となるイメージを養っていきます。また、Group Workを通して、コミュニケーションも豊かにとれるよう積極性を持てるようにします。		
授業到達目標	簡単な日常英会話を躊躇なく運用出来るようにします。		
授業方法 (学習指導法)	理解ある同じ受講生とのコミュニケーションは、プレッシャーを軽減する利点があります。受講生同士ペアやグループを組み、その落ち着いた状況で教科書の会話例をもとにテーマに沿って会話を発展させていきます。		
	Text内の、各UnitにはTopicが設けられて基本的なConversationが成されています。そのTopicとConversationを基礎に各自、各グループで考えられるSituationを想定して、Conversationを展開して行きます。日本人に独特な、発音を出来るだけNativeに近いものに修正し、これまで学んできた英語をPracticalなものになるような授業にいたします。 下記には理想的な進行を計画として立てておりますが、クラスの能力によっては進行を遅くする場合も想定されます。		
	回	内容	
	1	第1回 Introduction	
	2	第2回 Unit 1 言語機能別英会話 (1) Group Making	
	3	第3回 Unit 2,3 言語機能別英会話(2),主語として便利なwe,you,they Mid-Term Examinationへ向けてTopicを決定	
	4	第4回 Unit4,5 疑問文のパターン(1),(2)	
	5	第5回 Unit 6,7 助動詞を使った文(1),(2)	



授業内容	6	第6回 Preparation for the Mid-Term Examination、3step 小テスト	
	7	第7回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)	
	8	第8回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)	
	9	第9回 Unit 8 名詞節を使った文(1) Group Making	
	10	第10回 Unit 9 名詞節を使った文(2) Final Examinationに向けてTopicを決定	
	11	第11回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文	
	12	第12回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文、3step 小テスト	
	13	第13回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！	
	14	第14回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！	
	15	第15回 Final Examination, Group Presentation	
	16	第16回 Final Examination, Group Presentation	
	キーワード	脱受験英語 イメージからの英語表現へ	
	教科書・教材・参考書	Let's Make a Skit Presentation (英宝社) 各自持っている参考書、辞書(英和、和英) この授業では、辞書はかなり重要です。	
	成績評価の方法・基準等	Class Attendance and Participation: 15% 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。 Mid-Term Examination 25% Final Examination 40%	
	受講要件(履修条件)	全講義出席が原則。ただし、正当な理由で欠席する場合は個人指導を行う。(課外クラブ活動に関しては正当な理由とは認められません。) 講義、演習の妨害行為は大人としてのモラルをもって自重してください。(スマートフォンの操作等) 目に余る場合は、退室及び辞退を申し入れます。 欠席回数1/3以上は期末試験の受験資格がなくなります。	
	備考(URL)		
学生へのメッセージ	中間、期末テストはGroup Workになり、Group内でのコミュニケーションも非常に重要になります。無断欠席、遅刻などは他の受講者にも非常に迷惑をかけることになるので、必ず責任ある態度で講義に望んでください。特に再履修の学生は、この点をよく考えてから決断してください。		



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 英語科目」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005019	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E6)		
編集担当教員	濱崎 大		
授業担当教員名(科目責任者)	濱崎 大		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	濱崎 大		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生（クラス等）	2E6		
担当教員Eメールアドレス	mohican007@hotmail.com 欠席報告はメールではなく、後日届けを提出してください。		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL	単位に関するお問い合わせは、事務を通して行ってください。		
担当教員オフィスアワー	非常勤講師室在中可 月・金 昼休み		
授業の概要及び位置づけ	英語でコミュニケーションを成立させるための様々なスキルを考え、これを実践します。今それぞれが持てる英語力で、最大限のコミュニケーション能力を習得出来るようにします。頭で英文を思い描くために、核となるイメージを養っていきます。また、Group Workを通して、コミュニケーションも豊かにとれるよう積極性を持てるようにします。		
授業到達目標	簡単な日常英会話を躊躇なく運用出来るようにします。		
授業方法（学習指導法）	理解ある同じ受講生とのコミュニケーションは、プレッシャーを軽減する利点があります。受講生同士ペアやグループを組み、その落ち着いた状況で教科書の会話例をもとにテーマに沿って会話を発展させていきます。		
	Text内の、各UnitにはTopicが設けられて基本的なConversationが成されています。そのTopicとConversationを基礎に各自、各グループで考えられるSituationを想定して、Conversationを展開して行きます。日本人に独特な、発音を出来るだけNativeに近いものに修正し、これまで学んできた英語をPracticalなものになるような授業にいたします。 下記には理想的な進行を計画として立てておりますが、クラスの能力によっては進行を遅くする場合も想定されます。		
	回	内容	
	1	第1回 Introduction	
	2	第2回 Unit 1 言語機能別英会話 (1) Group Making	
	3	第3回 Unit 2,3 言語機能別英会話(2),主語として便利なwe,you,they Mid-Term Examinationへ向けてTopicを決定	
	4	第4回 Unit4,5 疑問文のパターン(1),(2)	
	5	第5回 Unit 6,7 助動詞を使った文(1),(2)	

授業内容	6	第6回 Preparation for the Mid-Term Examination、3step 小テスト	
	7	第7回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)	
	8	第8回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)	
	9	第9回 Unit 8 名詞節を使った文(1) Group Making	
	10	第10回 Unit 9 名詞節を使った文(2) Final Examinationに向けてTopicを決定	
	11	第11回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文	
	12	第12回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文、3step 小テスト	
	13	第13回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！	
	14	第14回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！	
	15	第15回 Final Examination, Group Presentation	
	16	第16回 Final Examination, Group Presentation	
	キーワード	脱受験英語 イメージからの英語表現へ	
	教科書・教材・参考書	Let's Make a Skit Presentation (英宝社) 各自持っている参考書、辞書(英和、和英) この授業では、辞書はかなり重要です。	
	成績評価の方法・基準等	Class Attendance and Participation: 15% 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。 Mid-Term Examination 25% Final Examination 40%	
	受講要件(履修条件)	全講義出席が原則。ただし、正当な理由で欠席する場合は個人指導を行う。(課外クラブ活動に関しては正当な理由とは認められません。) 講義、演習の妨害行為は大人としてのモラルをもって自重してください。(スマートフォンの操作等) 目に余る場合は、退室及び辞退を申し入れます。 欠席回数1/3以上は期末試験の受験資格がなくなります。	
	備考(URL)		
学生へのメッセージ	中間、期末テストはGroup Workになり、Group内でのコミュニケーションも非常に重要になります。無断欠席、遅刻などは他の受講者にも非常に迷惑をかけることになるので、必ず責任ある態度で講義に望んでください。特に再履修の学生は、この点をよく考えてから決断してください。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005020	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2M1)		
編集担当教員	奥田 阿子		
授業担当教員名(科目責任者)	奥田 阿子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	奥田 阿子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-35(call1)		
対象学生（クラス等）	2M1		
担当教員Eメールアドレス	a-okuda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	質問受付時間：月曜日 2 限目 教員Eメールアドレス宛に質問も可		
授業の概要及び位置づけ	4年間の基礎となる英語力を身につけ、将来の学会発表等を想定した実践的な英語の運用能力を養成する。		
授業到達目標	情報収集を行ったものに対し、英語を用いて相手に伝えられるようになること。		
授業方法（学習指導法）	授業で扱う内容は授業前に学習し、内容理解をしておく。授業中は、その内容を発展させた活動を取り入れ、グループでの発表に備えた作業を行ってもらいながら英語の運用能力の養成を図ります。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション 教材の説明、学習方法の説明、成績についての説明 グループ作り アンケートの実施	
	2	グループワーク 学習方法について iPadの導入	
	3	個人/グループワーク NEWS番組、NEWSの記事を使用したフレーズの習得	
	4	個人/グループワーク NEWS番組、NEWSの記事を使用したフレーズの習得	
	5	個人ワーク 3回目、4回目の授業で学んでフレーズを使用したオリジナル記事の作成	
	6	UNITテスト グループワーク	

授業内容		5回目の授業で作成した記事に対し、グループでピアレビューを行う
	7	グループワーク ピアレビューした記事をもとに、グループで発表準備を行う
	8	グループワーク 発表
	9	グループワーク 発表の振り返りと他グループの評価
	10	個人/グループワーク 動画や資料を通して、意思力について理解し、自らの学習に応用できるか考える
	11	個人/グループワーク 動画や資料を通して、意思力について理解し、自らの学習に応用できるか考える
	12	UNITテスト グループワーク 10回、11回の授業で得た情報をもとに発表準備を行う
	13	グループワーク 10回、11回の授業で得た情報をもとに発表準備を行う
	14	グループワーク 発表
	15	グループワーク 発表の振り返りと他グループの評価
	16	期末テスト
キーワード		
教科書・教材・参考書		3-Step CALL System (e-learning) Power Up Your English with CNN News
成績評価の方法・基準等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト：20%</li> <li>・期末試験：30%</li> <li>・提出物、グループワークの成果物：30% (自分たちでの評価、他グループからの評価、教員からの評価等)</li> <li>・e-learning：20% (PowerWords 10%：単語の教材のレベルを1上げること 3-Step CALL System 10%：2回のUNITテスト)</li> </ul>
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		リスニング力を上げるためには、毎日少しの時間でも英語を耳にする時間を作りましょう！！



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 英語科目」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005021	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T1)		
編集担当教員	濱崎 大		
授業担当教員名(科目責任者)	濱崎 大		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	濱崎 大		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生（クラス等）	2T1		
担当教員Eメールアドレス	mohican007@hotmail.com 欠席報告はメールではなく、後日届けを提出してください。		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL	単位に関するお問い合わせは、事務を通して行ってください。		
担当教員オフィスアワー	非常勤講師室在中可		
授業の概要及び位置づけ	英語でコミュニケーションを成立させるための様々なスキルを考え、これを実践します。今それぞれが持てる英語力で、最大限のコミュニケーション能力を習得出来るようにします。頭で英文を思い描くために、核となるイメージを養っていきます。また、Group Workを通して、コミュニケーションも豊かにとれるよう積極性を持てるようにします。		
授業到達目標	簡単な日常英会話を躊躇なく運用出来るようにします。		
授業方法（学習指導法）	理解ある同じ受講生とのコミュニケーションは、プレッシャーを軽減する利点があります。受講生同士ペアやグループを組み、その落ち着いた状況で教科書の会話例をもとにテーマに沿って会話を発展させていきます。		
	Text内の、各UnitにはTopicが設けられて基本的なConversationが成されています。そのTopicとConversationを基礎に各自、各グループで考えられるSituationを想定して、Conversationを展開して行きます。日本人に独特な、発音を出来るだけNativeに近いものに修正し、これまで学んできた英語をPracticalなものになるような授業にいたします。 下記には理想的な進行を計画として立てておりますが、クラスの能力によっては進行を遅くする場合も想定されます。		
	回	内容	
	1	第1回 Introduction	
	2	第2回 Unit 1 言語機能別英会話 (1) Group Making	
	3	第3回 Unit 2,3 言語機能別英会話(2),主語として便利なwe,you,they Mid-Term Examinationへ向けてTopicを決定	
	4	第4回 Unit4,5 疑問文のパターン(1),(2)	
	5	第5回 Unit 6,7 助動詞を使った文(1),(2)	

授業内容	6	第6回 Preparation for the Mid-Term Examination 3step 小テスト	
	7	第7回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)	
	8	第8回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)	
	9	第9回 Unit 8 名詞節を使った文(1) Group Making	
	10	第10回 Unit 9 名詞節を使った文(2) Final Examinationに向けてTopicを決定	
	11	第11回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文	
	12	第12回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文 3step 小テスト	
	13	第13回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！	
	14	第14回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！	
	15	第15回 Final Examination, Group Presentation	
	16	第16回 Final Examination, Group Presentation	
	キーワード	脱受験英語 イメージからの英語表現へ	
	教科書・教材・参考書	Let's Make a Skit Presentation (英宝社) 各自持っている参考書、辞書 (英和、和英) この授業では、辞書はかなり重要です。	
	成績評価の方法・基準等	Class Attendance and Participation: 15% 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。 Mid-Term Examination 25% Final Examination 40%	
	受講要件 (履修条件)	全講義出席が原則。ただし、正当な理由で欠席する場合は個人指導を行う。(課外クラブ活動に関しては正当な理由とは認められません。) 講義、演習の妨害行為は大人としてのモラルをもって自重してください。(スマートフォンの操作等) 目に余る場合は、退室及び辞退を申し入れます。 欠席回数 $1/3$ 以上は期末試験の受験資格がなくなります。	
	備考 (URL)		
学生へのメッセージ	中間、期末テストはGroup Workになり、Group内でのコミュニケーションも非常に重要になります。無断欠席、遅刻などは他の受講者にも非常に迷惑をかけることになるので、必ず責任ある態度で講義に望んでください。特に再履修の学生は、この点をよく考えてから決断してください。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005022	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T2)		
編集担当教員	香川 実成		
授業担当教員名(科目責任者)	香川 実成		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	香川 実成		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-13		
対象学生（クラス等）	2T2		
担当教員Eメールアドレス	midvinter.jk@gmail.com		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	09043429702		
担当教員オフィスアワー	月曜日12:00～12:30、及びEメールにて（midvinter.jk@gmail.com）		
授業の概要及び位置づけ	英会話における基本フレーズを、海外旅行を中心とするシチュエーションを想定し、その中で自由に付けるようになることを目指します。授業中はペアワークをおこないます。		
授業到達目標	①海外に渡航する際、最低限度の英語コミュニケーションをおこなえるようにする、 ②そのため、英会話の基本フレーズを覚え、状況によって応用できるようにする、 ③リスニング力を強化する、 一以上を目標とします。		
授業方法（学習指導法）	授業の予習、復習を確認するアクティビティ（小テスト含む）を中心として、ペアワークを含む演習形式でおこないます。		
授業内容	回	内容	
	1	授業の進め方と課題の内容 Unit 1: On the Plane	
	2	Unit 1: On the Plane	
	3	Unit 2: At the Currency Exchange	
	4	Unit 3: At the Hotel 1	
	5	Unit 4: At the Hotel 2	
	6	Unit 5: On the Train / Bus 3step小テスト(1)	
	7	Unit 6: Sightseeing 1	
	8	Midterm Review: Units 1-6	
	9	Unit 7: Shopping 1	
	10	Unit 8: Shopping 2	



	11	Unit 9: At the Post Office
	12	Unit 10: Sightseeing 2 3step小テスト(2)
	13	Unit 11: At the Restaurant
	14	Unit 12: At the Hospital / Pharmacy
	15	Final Review: Units 7-12
	16	定期試験
キーワード	海外旅行 英会話基本フレーズ ペアワーク	
教科書・教材・参考書	Tae Kudo, My First Trip — Key Phrases for Traveling Abroad (『使える!話せる!海外旅行の基本フレーズ』) (2014年、センゲージラーニング)	
成績評価の方法・基準等	E-Learning : 20% 定期試験 : 50% 小テスト/課題 : 30%	
受講要件 (履修条件)	原則として全回出席することを単位認定の要件とします。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005023	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T3)		
編集担当教員	ローン 悦子		
授業担当教員名(科目責任者)	ローン 悦子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	ローン 悦子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-36(call2)		
対象学生 (クラス等)	2T3		
担当教員Eメールアドレス	etsukolawn@hotmail.com		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業の前後、またはメールにて質問を受け付けます。		
授業の概要及び位置づけ	本授業では、実用的な英会話の表現を習得します。特にリスニングとスピーキングに力を入れながら基礎的かつ機能的な英語運用能力の向上を目指します。		
授業到達目標	授業を通して、英語コミュニケーション活動に慣れ親しみ、「使える」基礎的なコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。また洋画を英語で(音声、字幕共)より理解できるようにすることを目標とします。		
授業方法 (学習指導法)	<p>授業では、テキストをベースに基礎的なコミュニケーションに役に立つような表現を学習していきます。また、新しい語彙、表現力を増やすためにauthenticな教材(配布物)、洋画を使用し(DVD視聴)、Readers' theater (朗読劇)などの活動を通して日本人学習者の苦手なイントネーション、単語のつながり方、母音の長音化などの改善を図り、ペアワーク、グループワークをより多く取り入れて授業を進めていきます。英語圏の文化、習慣の違いにも触れていきます。</p> <p>授業では、眠ったボキャブラリーを「使える」知識へと変えるために、受講生には、ペアワーク、グループワークを通して出来る限りスピーキングの機会を設けます。スピーキングの明瞭さを向上させるために、DVDの視聴、補助教材も適宜使用しReaders' theaterなどの活動を通して、イントネーション、単語のつながり方(リンキング)、母音の長音化などに焦点をあてて練習していきます。また、スピーキングの弱点を克服するために、自分の会話を録音して接続表現、学習した表現が適切に使われているか確認しながら練習していきます。会話の練習を何度も繰り返すことにより、日本語と英語の発想の違いなどを体感をしてほしいと思います。テキスト付属のオンラインワークブック、Self-study CD-ROMを使用し予習、復習をして授業に臨んで下さい。また、本授業では、e-learning教材を課外学習として取り組んでもらいます(評価20%)。</p>		
	回	内容	
	1	第1回 9月29日オリエンテーション、授業の進め方、Self-introduction、DVD視聴(2回目以降も継続的に視聴)	
	2	第2回 10月6日 テキストOnline Workbookの初期設定、Relationships	

授業内容	3	第3回 10月20日 Relationships	
	4	第4回 10月27日 e-learning復習他	
	5	第5回 11月10日 Relationships	
	6	第6回 11月17日 ①3 Step 小テスト Readers' theater	
	7	第7回 12月1日 Music	
	8	第8回 12月8日 Music	
	9	第9回 12月15日 Readers' theater	
	10	第10回 12月22日 e-learning復習他	
	11	第11回 1月5日 On Vacation	
	12	第12回 1月19日 ②3 Step 小テスト On vacation	
	13	第13回 1月20日 On vacation	
	14	第14回 1月26日 Readers' theater	
	15	第15回 2月2日 Review	
	16	第16回 2月9日 定期試験	
	キーワード	フレーズリーディング、シャドーイング、リピーティング、ディクテーション	
	教科書・教材・参考書	教科書として Jack C. Richards・David Bohlke 著 『Four Corners 3 Student's Book B with Online Workbook』 Cambridge University Press - ISBN:9781107668614 を使用します。 *第1回目の授業までに、必ず生協の販売コーナーで各自購入して下さい。	
成績評価の方法・基準等	定期試験20%、授業中の発表、小テスト、課題、Readers' theater 50%、積極的な授業への参加10%、課外学習のe-learning 20%(3 Step Call System10%, PowerWords10%)を総合的に判断します。		
受講要件 (履修条件)	教科書、英語辞典 (電子辞書も可) を、毎回持参、また毎回授業に出席すること (時間厳守)。学習した内容は、きちんと復習すること!		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	英語が話せると世界 (チャンス) が広がります。今できることをどんどんトライして下さい。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005024	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T4)		
編集担当教員	光野 百代		
授業担当教員名(科目責任者)	光野 百代		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	光野 百代		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生（クラス等）	2 T 4		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	言語教育センター		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木曜 3限		
授業の概要及び位置づけ	この授業は、英語の表現形式に親しみ、使い、練習しながら、英語的な思考・表現の理解を深め、読む、書く、聞く、話すというコミュニケーション技能を統合して高めることに重点をおきます。		
授業到達目標	コミュニケーション能力を習得するために、英語の論理で成り立った、基礎的な情報伝達パターンの理解を深め、相手の意見を把握し、自分の考えを相手に伝えるコミュニケーション技能を習得し、英語学習への関心と自信を持つことを目標とします。		
授業方法（学習指導法）	短い練習問題からはじめ、授業の進度に応じてニュース等の具体例の検討を通して、グループワークや発表を行います。 また、必要に応じて文法や語句の説明を行います。		
授業内容	授業のはじめに英語のコミュニケーション能力を習得するために重要な学習活動を概観し、英語の表現形式を確認しながら授業を進めます。 授業の進度に応じて、授業計画が変更になることもあります。		
	回	内容	
	1	introduction	
	2	Unit1	
	3	Unit1	
	4	Unit2	
	5	Unit2	
	6	Unit3 3 Step 小テスト	
	7	Unit3	
8	復習		

	9	Unit4
	10	Unit4
	11	Unit5
	12	Unit5 3 Step 小テスト
	13	Unit6
	14	Unit6
	15	Unit6
	16	期末試験
キーワード	コミュニケーション能力、クリティカルシンキング、異文化理解	
教科書・教材・参考書	Thinking in English: Language Skills and Information Mapping for Clear Communication Cengage 170 Oyen 英語の辞書 必要に応じてハンドアウトを適宜配布。	
成績評価の方法・基準等	E-Learning (20%)、授業活動・課題への積極的参加 (20%)、期末試験 (60%)	
受講要件 (履修条件)	基本的に授業には毎回遅れないよう出席して下さい。授業を5回以上欠席した場合は成績評価の対象としません。また、2回の遅刻で1回の欠席とカウントしますので注意してください。 最初の授業は、この授業の計画を説明するので必ず出席してください。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 英語科目」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005025	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T5)		
編集担当教員	井石 哲也		
授業担当教員名(科目責任者)	井石 哲也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井石 哲也		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生 (クラス等)	2T5		
担当教員Eメールアドレス	iseki@kwassui.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-822-4107(内線257)		
担当教員オフィスアワー	授業前後に授業を実施している教室で受付けます。		
授業の概要及び位置づけ	英語読解力養成と聞き取り（アメリカ英語、イギリス英語の会話表現等）、文化理解を中心に、基礎英語力アップをはかることが出来る。		
授業到達目標	英語力（4技能）の基礎力アップとともに、主に英米のさまざまな文化の諸相について学ぶことが出来る。		
授業方法（学習指導法）	英文法の知識を応用しながら、読解力を向上させる方法を学ぶことが出来る。また英語の聞き取り能力を養成するための練習を多く行い、英語運用能力を高めることが出来る。なお授業はすべて英語で行う。		
授業内容	第1回 受講上の注意、テキストの使用法（第1章をサンプルとして）と授業の進め方について説明を行う。第2回～第15回は各回のトピックに従って英文の読解演習を行い、第16回目に定期試験を実施する。また第6回と第12回には3stepの小テストを実施し、結果を評価の一部にあてる。授業における自発的な発表も評価するので、積極性を持って臨んでほしい。		
	回	内容	
	1	導入・授業の進め方について テキストUnit 1: Education (1) School Subjects	
	2	Unit 1: Education(2) "Homeschooling"	
	3	Unit 2: Personal Stories	
	4	Unit 3: Style and Fashion	
	5	Unit 4: Interesting Lives	
	6	3step 小テスト、Unit 5: Our World(1) Human-made Wonders	
	7	Unit 5: Our World(2) Geographical Features	
	8	Unit 6: Organizing Your Time	
9	Unit 7: Personalities		

	10	Unit 8: The Environment
	11	Unit 9: Relationships
	12	3step小テスト、Unit 10: Living Your Life
	13	Unit 11: Music
	14	Unit 12: On Vacation
	15	Review of the whole units
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書		Jack C. Richards, David Bohlke, Four Corners 3 (Cambridge University Press, 2012)
成績評価の方法・基準等		定期試験60点、課外学習のe-learning 20点 (3step小テスト10点、Power Words 10点)、授業における発表等20%の配点とする。
受講要件 (履修条件)		
備考 (URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 英語科目」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005026	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2K1)		
編集担当教員	川島 浩勝		
授業担当教員名(科目責任者)	川島 浩勝		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	川島 浩勝		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-45(call3)		
対象学生(クラス等)	(2K1)		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	長崎外国語大学 3階334研究室		
担当教員TEL	095-840-2000 (内線334)		
担当教員オフィスアワー	授業終了後、質問を受けつける。また、話し合いにより、後日、時間を設定する場合がある。		
授業の概要及び位置づけ	英語によるコミュニケーションを円滑に行うのに必要とされる口語英語の理解能力の基礎を作る。		
授業到達目標	本授業の到達目標は、1) 口語英語のスピード・イントネーション・リズムに対応できる、2) リスニングに対応できる語彙数を増やす、3) 英語のミニマルペアーの聞き分けができる、4) 英語のミニマルペアーを正しく発音できる、5) 英語の連続音を正しく理解し、聞き取ることができる、である。		
授業方法(学習指導法)	様々なタスクを用い、リスニングにフォーカスをあてた授業を行う。受講者が自己のリスニング能力を客観的に把握・理解できる場面が用意され、同時に、リスニングの学習法を学べるように授業が組み立てられている。なお、シラバスの細部は状況に応じて変更することがある。		
授業内容	回	内容	
	1	授業方針の説明・英語力診断テスト	
	2	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと口語英語の理解・整理1	
	3	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと口語英語の理解・整理2	
	4	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと口語英語の理解・整理3	
	5	アメリカのドラマを題材にしたリスニングとリスニングに対応した語彙力のアップ1	
	6	アメリカのドラマを題材にしたリスニングとリスニングに対応した語彙力のアップ2, 3Step 小テスト	
	7	アメリカのドラマを題材にしたリスニングとリスニングに対応した語彙力のアップ3	
	8	これまでの授業のまとめ	



	9	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと母音・子音のミニマルペアーの整理・理解1
	10	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと母音・子音のミニマルペアーの整理・理解2
	11	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと母音・子音のミニマルペアーの整理・理解3
	12	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解1, 3 Step 小テスト
	13	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解2
	14	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解3
	15	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解4
	16	学期末試験
キーワード	口語英語・リスニング・語彙力・ミニマルペアー・連続音	
教科書・教材・参考書	基本的にはプリント教材を配布するが、第1回目の授業で実施する英語力診断テストの結果によっては、副教材を購入する場合がある。	
成績評価の方法・基準等	基本的に、E-Learning 20%・レポート20%・小テスト&提出物30%・期末試験30%とする。なお、欠席1回でマイナス7点（正当な理由がある場合は考慮する）となる等の「授業ルール」があるので注意すること。詳細は、第1回目の授業で配布する資料を参照すること。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	英語学習の意義を再度考え、課題に意欲的に取り組んで下さい。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005027	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2K2)		
編集担当教員	光野 百代		
授業担当教員名(科目責任者)	光野 百代		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	光野 百代		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養B棟]B-15		
対象学生（クラス等）	2 K 2		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	言語教育センター		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木曜3限		
授業の概要及び位置づけ	この授業は、英語の表現形式に親しみ、使い、練習しながら、英語的な思考・表現の理解を深め、読む、書く、聞く、話すというコミュニケーション技能を統合して高めることに重点をおきます。		
授業到達目標	コミュニケーション能力を習得するために、英語の論理で成り立った、基礎的な情報伝達パターンの理解を深め、相手の意見を把握し、自分の考えを相手に伝えるコミュニケーション技能を習得し、英語学習への関心と自信を持つことを目標とします。		
授業方法（学習指導法）	短い練習問題からはじめ、授業の進度に応じてニュース等の具体例の検討を通して、グループワークや発表を行います。 また、必要に応じて文法や語句の説明を行います。		
授業内容	授業のはじめに英語のコミュニケーション能力を習得するために重要な学習活動を概観し、英語の表現形式を確認しながら授業を進めます。 授業の進度に応じて、授業計画が変更になることもあります。		
	回	内容	
	1	introduction	
	2	Unit1	
	3	Unit1	
	4	Unit2	
	5	Unit2	
	6	Unit3 3 Step 小テスト	
	7	Unit3	
	8	復習	

	9	Unit4
	10	Unit4
	11	Unit5
	12	Unit5 3 Step 小テスト
	13	Unit6
	14	Unit6
	15	Unit6
	16	期末試験
キーワード	コミュニケーション能力、クリティカルシンキング、異文化理解	
教科書・教材・参考書	Thinking in English: Language Skills and Information Mapping for Clear Communication Cengage 170 Oyen 英語の辞書 必要に応じてハンドアウトを適宜配布。	
成績評価の方法・基準等	E-Learning (20%)、授業活動・課題への積極的参加 (20%)、期末試験 (60%)	
受講要件 (履修条件)	基本的に授業には毎回遅れないよう出席して下さい。授業を5回以上欠席した場合は成績評価の対象としません。また、2回の遅刻で1回の欠席とカウントしますので注意してください。 最初の授業は、この授業の計画を説明するので必ず出席してください。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005028	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2K3)		
編集担当教員	大坪 有実		
授業担当教員名(科目責任者)	大坪 有実		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大坪 有実		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-31		
対象学生（クラス等）	2K3		
担当教員Eメールアドレス	r_otsubo@hotmail.co.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	r_otsubo@hotmail.co.jpのメールで受け付けます。		
授業の概要及び位置づけ	ビートルズ、イギリス英語とアメリカ英語の綴りの違いなど、詳しくはわからなかったイギリス文化について理解を深め、私たちの文化との相違点・類似点を捉えていく。		
授業到達目標	イギリス文化への理解を通し、日英の文化を比較し、それぞれの文化についての自分の意見が述べられるようになる。		
授業方法（学習指導法）	リーディングを通して、イギリス文化について理解を深め、正確な理解ができているか確認問題で理解度を確かめる。続いて、自身の意見を述べる際に必要となる英語力強化の為、英文法を確認し、最後に各トピックに関して、自分の意見を述べる。		
授業内容	イギリス文化について学び、日・英の文化における類似点、相違点を確認し、それぞれについて自分の考えを述べる。		
	回	内容	
	1	Introduction 授業の進め方、諸注意等	
	2	The Royal Mail	
	3	British Sports Everywhere	
	4	The Beatles Forever!	
	5	From the Cradle to the Grave?	
	6	3 Step 小テスト Great Novelists	
	7	History of the Royal Families	
	8	Pound or Euro?	
9	What is the Tube?		

	10	Two-Party Politics?
	11	Art Collections in Britain
	12	3 Step 小テスト New House, Old House
	13	Are British Foods Tasty?
	14	Newspaper, TV or i Pad?
	15	Public School and Hogwarts
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	Cross-Cultural Views on Britain 南雲堂 ￥2,000+税	
成績評価の方法・基準等	e-learning 20% 定期試験（授業への積極的な取り組みを含む）80%	
受講要件（履修条件）	原則的に、全回授業に参加することを単位認定の要件とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	ABC News Shower等の、英語のニュースを観ることがこの授業の内容の理解を深めるために有用である。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005029	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2K4)		
編集担当教員	山崎 有介		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 有介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 有介		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生（クラス等）	2K4		
担当教員Eメールアドレス	pro-1223@i-next.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後		
授業の概要及び位置づけ	単に教員から学ぶだけでなく、積極的にノートをとることによって予習や復習が可能になり、授業内容が確認でき、真の英語力が向上し、試験対策にも役立つと期待されます。		
授業到達目標	無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEICや英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。		
授業方法（学習指導法）	毎回短い英文を読み、語彙・語法を指導する。また、Exerciseで応用に挑戦し、自ら英文を書けるようにする。		
	毎回1つのChapterを進む。Taking Notes、Comprehension & Vocabulary、Grammar & Compositionを行う。理解度を確認するための小テストを時折行う(授業時に指示)。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション：授業の進め方・評価の仕方の説明・授業アンケート&クイズ	
	2	If Great Buddha stood up? 文法のテーマ：動詞の語法 (1)	
	3	The development of mobile phones 文法のテーマ：動詞の語法 (2)	
	4	The Internet in globalization 文法のテーマ：時制	
	5	The history of curry 文法のテーマ：助動詞	
	6	Dogs as a companion 文法のテーマ：不定詞 3Step教材の小テスト(1)	

授業内容	7	Global warming 文法のテーマ：動名詞
	8	中間としてのまとめ（テストを含む）
	9	St. Valentine's Day 文法のテーマ：分詞
	10	Republic of Seychilles 文法のテーマ：冠詞
	11	The role of sports 文法のテーマ：前置詞
	12	Ig Nobel Prize 文法のテーマ：受動態 3Step教材の小テスト(2)
	13	What makes a diet a success? 文法のテーマ：関係詞（1） 関係代名詞
	14	A myth about escaping from hell 文法のテーマ：関係詞（2） 関係副詞
	15	Thinking of a type of work in life 文法のテーマ：接続詞
	16	全体のまとめ（定期試験を含む）
キーワード	文法/Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary	
教科書・教材・参考書	Learn and Study English: How to take Notes (Asahi Press)	
成績評価の方法・基準等	○定期試験30%、中間試験30%、小試験10%、e-Learning20%(Power Words:10%, 3Step:10%)、授業への姿勢(発言、質問など)10%	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005030	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2L4)		
編集担当教員	山口 敦子		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 敦子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 敦子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-14		
対象学生（クラス等）	2L4		
担当教員Eメールアドレス	a_yamaguchi@n-junshin.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-846-0084		
担当教員オフィスアワー	授業終了時		
授業の概要及び位置づけ	世界情勢や文化、身近な問題まで幅広い内容を伝える海外のニュース番組をDVDで視聴しながら、リスニング力を強化する。またニュース英語によく使われる構文や表現を学ぶことで、内容をすばやく把握する力を身につけ、国際的な視野の拡大に繋げる。		
授業到達目標	ニュース英語のリズムや速度に慣れ、リスニング力を向上させる。現代の様々な社会問題に関するキーワードを習得しながら、ニュースの内容を大まかに把握することができるようにする。		
授業方法（学習指導法）	イギリスの代表的なニュース番組であるBBCニュースのビデオ教材を視聴しながらリスニング練習と大まかな内容把握を行い、ニュースの要旨を作成する。付属のDVDでの予習を前提とする。		
授業内容	テキストの各ユニットの中から学生にとって興味深い内容を持つニュースを扱う。毎回テキスト付属のDVDでニュースクリップを視聴し、リスニング問題の予習をしておく。授業でニュースクリップを視聴しながらリスニング問題の解答を確認する。ニュースの本文を完成させ、おおまかな内容把握を行う。次にニュースに使われた重要な単語と5W1Hに関する問題演習を行うことで細部の理解を目指す。最後はニュースの要約文を完成させ、内容理解と新しい表現の確認をする。		
	回	内容	
	1	イントロダクション	
	2	The Queen; Patron of the Arts: リスニング演習と内容把握	
	3	The Queen; Patron of the Arts: 総合問題演習と要約文の完成	
	4	Facebook and Free Speech: リスニング演習と内容把握	
	5	Facebook and Free Speech: 総合問題演習と要約文の完成	
6	3step小テスト、The Stonehenge Site: リスニング演習と内容把握		



	7	The Stonehenge Site: 総合問題演習と要約文の完成
	8	The Death of the Book?: リスニング演習と内容把握
	9	The Death of the Book?: 総合問題演習と要約文の完成
	10	Bringing Back the Bees: リスニング演習と内容把握
	11	Bringing Back the Bees: 総合問題演習と要約文の完成
	12	3step小テスト、At Home with Dementia: リスニング演習と内容把握
	13	At Home with Dementia: 総合問題演習と要約文の完成
	14	Space: Next Step or Dead End?: リスニング演習と内容把握、
	15	Space: Next Step or Dead End?: 総合問題演習と要約文の完成
	16	定期試験
キーワード	ニュース英語、リスニング、リーディング	
教科書・教材・参考書	BBC: Seeing the World through the News 1 (金星堂)	
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な取り組み状況(発表) 10% 定期試験 70%、 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。	
受講要件(履修条件)	毎回リスニング、和訳、問題演習の予習をして授業に臨むこと	
備考(URL)		
学生へのメッセージ	BBCのニュースの中に、英語圏の文化や現代意識を読み取りながら、生きた英語を学んでいきましょう。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005031	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2L5)		
編集担当教員	上村 俊彦		
授業担当教員名(科目責任者)	上村 俊彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	上村 俊彦		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生 (クラス等)	2L5		
担当教員Eメールアドレス	yandi@sun.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤控え室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木曜日 授業前後の時間帯		
授業の概要及び位置づけ			
授業到達目標	CEFR B1レベルの英語テキストを用いてコミュニケーション演習をおこなう。		
授業方法 (学習指導法)	英文テキストの音声教材リスニング、シャドウイング演習をおこなう。テキストのトピックに準拠したライティング、スピーキングの演習をおこなう。		
授業内容	回	内容	
	1	Orientation 音読とshadowingのしかた	
	2	現在の表現、分詞形容詞 「1 教育」	
	3	関係節 「2 体験を語る」	
	4	過去の表現 (過去形、現在完了、過去完了) 「3 スタイルとファッション」	
	5	比較の表現 「4 興味をそそる体験」	
	6	未来を示す現在時制 「5 世界」 3Step小テスト	
	7	Will (依頼、約束) 「時間管理」	
	8	U.1～U.6まとめと中間試験	

	9	副詞句 「7 個性」
	10	仮定法過去 「8 環境」
	11	助動詞（推測・推量） 「9 対人関係」
	12	仮定法過去完了 「10 人生」 3Step小テスト
	13	受動態 「11 音楽」
	14	動名詞、助動詞（必然・推奨） 「12 休暇」
	15	U.7～U.12まとめ、終了試験
	16	予備日
キーワード	CEFR B1	
教科書・教材・参考書	Richards, J.C. & Bohlke, D. (2012) Four Corners 3. Cambridge University Press.	
成績評価の方法・基準等	クラス学習（授業） 80% 自律学習（CALL教材） 20%	
受講要件（履修条件）	毎回、テキストの音声教材にもとづくリスニング・クイズをおこなう。初回に、音声教材を入れるUSB（初期化済み）を持参してください。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	音声教材を用いた音読、シャドウイング学習を継続的におこないましょう。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005032	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2L6)		
編集担当教員	藤内 則光		
授業担当教員名(科目責任者)	藤内 則光		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤内 則光		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-35(call1)		
対象学生（クラス等）	(2L6)		
担当教員Eメールアドレス	fujiuchi@nagasaki-gaigo.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-840-2000 (内線335)		
担当教員オフィスアワー	外語大335研究室にて随時・要確認		
授業の概要及び位置づけ	この授業では、伝達手段としての英語の基本的な技能と、特に読解能力と聴取能力の相関関係を解説した後、読解と聴解の能力を総合的に向上させる訓練を行う。最終的には、「読んで分かる英語」から「聞いて分かる英語」へと、受講生の英語力を向上させる。 また、この授業ではプロの教師の心構えも身につけていただきたい。		
授業到達目標	CNN放送を聞いて内容を説明できる程度の英語運用能力の獲得を目的とする。		
授業方法（学習指導法）	CALL教室の機材を適宜活用し、与えられた英語のテキストの聴解に音読を加えた訓練方式。		
	教科書は主教材と副教材の二種類を使用する。 授業開始当初は副教材を用い、基本的な英語の聴解とディクテーション、適宜発音指導を行い、採点結果を出席した証拠として回収するとともに、提出物として平常点に加算する。 主教材は、主に現代日本の時事に関するNHK BSのニュースを題材にしたDVD教材。第1回目のオリエンテーションにて受講生のリクエストを募り、以降、そのリクエストどおりに授業を進行させる。教科書にある英作文を課題として課し、提出させる。受講生は主教材付属のDVDを見て、事前に予習をすること。 授業の進行が明確に分かっているので、欠席者は次の授業の準備をすること。DVDを見る装置が自宅にない場合でも、図書館を利用するなどの方策を自分で考えること。教科書は設問に解答するだけでなく、本文の音読を予習や復習に取り入れること。1回視聴して内容を理解出来る程度の復習を前提にします。授業も最終試験も難しいので、常に復習を怠らないように。また、最終試験の評価割合が少ないので、時間外の学習を怠らないように。 定期試験 16回目開講時		
	回	内容	
	1	10/2 オリエンテーション、座席決定、教科書販売、期末試験の仕様発表、講義の心得確認	
	2	10/9 副教材 Unit 1、主教材 教科書 Unit 1、新章へ	
	3	10/16 副教材 Unit 3、主教材 教科書継続、または新章へ	

授業内容	4	10/23 副教材 Unit 4、主教材 教科書継続、または新章へ
	5	10/30 副教材 Unit 5、主教材 教科書継続、または新章へ
	6	11/6 副教材 Unit 6、主教材 教科書継続、または新章へ 3-Step CALL 小テスト1
	7	11/13 副教材 Unit 7、主教材 教科書継続、または新章へ
	8	11/20 副教材 Unit 8、主教材 教科書継続、または新章へ
	9	11/27 副教材 Unit 9、主教材 教科書継続、または新章へ
	10	12/4 副教材 Unit 11、主教材 教科書継続、または新章へ
	11	12/11 副教材 Unit 12、主教材 教科書継続、または新章へ
	12	12/18 副教材 Unit 13、主教材 教科書継続、または新章へ 3-Step CALL 小テスト
	13	12/25 副教材 Unit 14、主教材 教科書継続、または新章へ
	14	1/8 副教材 Unit 21、主教材 教科書継続、または新章へ
	15	1/15 副教材 Unit 24、主教材 教科書継続、または新章へ
	16	1/29 定期試験 90分、提出物最終締め切り
	キーワード	
	教科書・教材・参考書	主教材：What's on Japan 8(金星堂) 副教材：Campus Listening(成美堂)
	成績評価の方法・基準等	全て主教材より 定期試験60%(単語理解8%、本文内容ディクテーション 14% (部分点あり)、内容理解28%、課題英作文 10% (部分点あり)) 平常点20%(英作文提出と副教材解答結果提出) 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。
受講要件 (履修条件)	教科書を購入し、発音記号が載っている英和辞典を必ず携行して授業に臨むこと。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	DVDを見て、放送を一通り音読で真似てみる程度の事前訓練をしてください。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005033	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2P2)		
編集担当教員	上村 俊彦		
授業担当教員名(科目責任者)	上村 俊彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	上村 俊彦		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）	2P2		
担当教員Eメールアドレス	yandi@sun.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控え室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木曜日授業前後の時間帯		
授業の概要及び位置づけ			
授業到達目標	CEFR B2レベルの英語によるコミュニケーション演習をおこなう。		
授業方法（学習指導法）	英文テキスト付属の音声教材を用いた音読、シャドウイング演習、テキストコンテンツに関するコミュニケーション活動（読み、聞き、書き、話す）をおこなう。		
	回	内容	
	1	Orientation 音読とシャドウイングについて	
	2	Indoor & outdoor 分詞の形容詞用法	
	3	Life's changes 助動詞（未来、妥当性）	
	4	Getting information 修飾句（前置詞句、分詞）	
	5	Men and women 句動詞、現在完了	
	6	Being different 未来を指す副詞節 3Step小テスト	
	7	Big business 受動態、従属節 (because, so, although, even though)	
		U.1～U6	

授業内容	8	中間試験
	9	Health 間接話法
	10	Sports and hobbies 単純過去形と現在完了
	11	Social issues 条件節
	12	Having it all 仮定法 (wish) 3Step小テスト
	13	Honestly speaking 仮定法過去
	14	Our earth like (動詞・前置詞)
	15	U.7～U.12 最終試験
	16	予備日
キーワード	CEFR B2	
教科書・教材・参考書	Stempleski, S.; Morgan, J.R. & Douglas, N. (2011) World Link, Developing English Fluency 2nd ed. Heinle Cengage Learning.	
成績評価の方法・基準等	クラス学習 80% 自律学習 (CALL教材) 20%	
受講要件 (履修条件)	初回に、USB (初期化済み) を持参。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	英語音声教材の音読、シャドウイングトレーニングを習慣化しましょう。	



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 英語科目」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2												
開講期間															
必修選択	必	単位数	1.0												
時間割コード	20140590005034	科目番号	05900050												
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2F1)														
編集担当教員	濱崎 大														
授業担当教員名(科目責任者)	濱崎 大														
授業担当教員名(オムニバス科目等)	濱崎 大														
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目														
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目												
教室	[教養A棟]A-11														
対象学生 (クラス等)	2F1														
担当教員Eメールアドレス	mohican007@hotmail.com 欠席報告はメールではなく、後日届けを提出してください。														
担当教員研究室	非常勤講師室														
担当教員TEL	単位に関するお問い合わせは、事務を通して行ってください。														
担当教員オフィスアワー	非常勤講師室在中可														
授業の概要及び位置づけ	英語でコミュニケーションを成立させるための様々なスキルを考え、これを実践します。今それぞれが持てる英語力で、最大限のコミュニケーション能力を習得出来るようにします。頭で英文を思い描くために、核となるイメージを養っていきます。また、Group Workを通して、コミュニケーションも豊かにとれるよう積極性を持てるようにします。														
授業到達目標	簡単な日常英会話を躊躇なく運用出来るようにします。														
授業方法 (学習指導法)	理解ある同じ受講生とのコミュニケーションは、プレッシャーを軽減する利点があります。受講生同士ペアやグループを組み、その落ち着いた状況で教科書の会話例をもとにテーマに沿って会話を発展させていきます。														
	Text内の、各UnitにはTopicが設けられて基本的なConversationが成されています。そのTopicとConversationを基礎に各自、各グループで考えられるSituationを想定して、Conversationを展開して行きます。日本人に独特な、発音を出来るだけNativeに近いものに修正し、これまで学んできた英語をPracticalなものになるような授業にいたします。 下記には理想的な進行を計画として立てておりますが、クラスの能力によっては進行を遅くする場合も想定されます。														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1回 Introduction</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第2回 Unit 1 言語機能別英会話 (1) Group Making</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第3回 Unit 2,3 言語機能別英会話(2),主語として便利なwe,you,they Mid-Term Examinationへ向けてTopicを決定</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第4回 Unit4,5 疑問文のパターン(1),(2)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第5回 Unit 6,7 助動詞を使った文(1),(2)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	第1回 Introduction	2	第2回 Unit 1 言語機能別英会話 (1) Group Making	3	第3回 Unit 2,3 言語機能別英会話(2),主語として便利なwe,you,they Mid-Term Examinationへ向けてTopicを決定	4	第4回 Unit4,5 疑問文のパターン(1),(2)	5	第5回 Unit 6,7 助動詞を使った文(1),(2)
回	内容														
1	第1回 Introduction														
2	第2回 Unit 1 言語機能別英会話 (1) Group Making														
3	第3回 Unit 2,3 言語機能別英会話(2),主語として便利なwe,you,they Mid-Term Examinationへ向けてTopicを決定														
4	第4回 Unit4,5 疑問文のパターン(1),(2)														
5	第5回 Unit 6,7 助動詞を使った文(1),(2)														



授業内容	6	第6回 Preparation for the Mid-Term Examination	
	7	第7回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work) 1回目 3step 小テスト (11月12日)	
	8	第8回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)	
	9	第9回 Unit 8 名詞節を使った文(1) Group Making	
	10	第10回 Unit 9 名詞節を使った文(2) Final Examinationに向けてTopicを決定	
	11	第11回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文	
	12	第12回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文 2回目 3step 小テスト (12月17日)	
	13	第13回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう!	
	14	第14回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう!	
	15	第15回 Final Examination, Group Presentation	
	16	第16回 Final Examination, Group Presentation	
	キーワード	脱受験英語 イメージからの英語表現へ	
	教科書・教材・参考書	Let's Make a Skit Presentation (英宝社) 各自持っている参考書、辞書(英和、和英) この授業では、辞書はかなり重要です。	
	成績評価の方法・基準等	Class Attendance and Participation: 15% 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。 Mid-Term Examination 25% Final Examination 40%	
	受講要件(履修条件)	全講義出席が原則。ただし、正当な理由で欠席する場合は個人指導を行う。(課外クラブ活動に関しては正当な理由とは認められません。) 講義、演習の妨害行為は大人としてのモラルをもって自重してください。(スマートフォンの操作等) 目に余る場合は、退室及び辞退を申し入れます。 欠席回数1/3以上は期末試験の受験資格がなくなります。	
	備考(URL)		
学生へのメッセージ	中間、期末テストはGroup Workになり、Group内でのコミュニケーションも非常に重要になります。無断欠席、遅刻などは他の受講者にも非常に迷惑をかけることになるので、必ず責任ある態度で講義に望んでください。特に再履修の学生は、この点をよく考えてから決断してください。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2																		
開講期間																					
必修選択	必	単位数	1.0																		
時間割コード	20140590005035	科目番号	05900050																		
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2F2)																				
編集担当教員	光野 百代																				
授業担当教員名(科目責任者)	光野 百代																				
授業担当教員名(オムニバス科目等)	光野 百代																				
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目																				
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目																		
教室	[教養A棟]A-42																				
対象学生（クラス等）	2 F 2																				
担当教員Eメールアドレス																					
担当教員研究室	言語教育センター																				
担当教員TEL																					
担当教員オフィスアワー	木曜 3限																				
授業の概要及び位置づけ	この授業は、英語の表現形式に親しみ、使い、練習しながら、英語的な思考・表現の理解を深め、読む、書く、聞く、話すというコミュニケーション技能を統合して高めることに重点をおきます。																				
授業到達目標	コミュニケーション能力を習得するために、英語の論理で成り立った、基礎的な情報伝達パターンの理解を深め、相手の意見を把握し、自分の考えを相手に伝えるコミュニケーション技能を習得し、英語学習への関心と自信を持つことを目標とします。																				
授業方法（学習指導法）	短い練習問題からはじめ、授業の進度に応じてニュース等の具体例の検討を通して、グループワークや発表を行います。 また、必要に応じて文法や語句の説明を行います。																				
授業内容	<p>授業のはじめに英語のコミュニケーション能力を習得するために重要な学習活動を概観し、英語の表現形式を確認しながら授業を進めます。授業の進度に応じて、授業計画が変更になることもあります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>introduction</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit1</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit2</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit2</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit3 3 Step 小テスト</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit3</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	introduction	2	Unit1	3	Unit1	4	Unit2	5	Unit2	6	Unit3 3 Step 小テスト	7	Unit3	8	復習
回	内容																				
1	introduction																				
2	Unit1																				
3	Unit1																				
4	Unit2																				
5	Unit2																				
6	Unit3 3 Step 小テスト																				
7	Unit3																				
8	復習																				

	9	Unit4
	10	Unit4
	11	Unit5
	12	Unit5 3 Step 小テスト
	13	Unit6
	14	Unit6
	15	Unit6
	16	期末試験
キーワード	コミュニケーション能力、クリティカルシンキング、異文化理解	
教科書・教材・参考書	Thinking in English: Language Skills and Information Mapping for Clear Communication Cengage 1700 yen 英語の辞書 必要に応じてハンドアウトを適宜配布。	
成績評価の方法・基準等	E-Learning (20%)、授業活動・課題への積極的参加 (20%)、期末試験 (60%)	
受講要件 (履修条件)	基本的に授業には毎回遅れないように出席して下さい。授業を5回以上欠席した場合は成績評価の対象としません。また、2回の遅刻で1回の欠席とカウントしますので注意してください。 最初の授業は、この授業の計画を説明するので必ず出席してください。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005036	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2F3)		
編集担当教員	藤内 則光		
授業担当教員名(科目責任者)	藤内 則光		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤内 則光		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-35(call1)		
対象学生（クラス等）	(2F3)		
担当教員Eメールアドレス	fujiuchi@nagasaki-gaigo.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-840-2000 (内線335)		
担当教員オフィスアワー	外語大335研究室にて随時・要確認		
授業の概要及び位置づけ	この授業では、伝達手段としての英語の基本的な技能と、特に読解能力と聴取能力の相関関係を解説した後、読解と聴解の能力を総合的に向上させる訓練を行う。最終的には、「読んで分かる英語」から「聞いて分かる英語」へと、受講生の英語力を向上させる。		
授業到達目標	CNN放送を聞いて内容を説明できる程度の英語運用能力の獲得を目的とする。		
授業方法（学習指導法）	CALL教室の機材を適宜活用し、与えられた英語のテキストの聴解に音読を加えた訓練方式。		
授業内容	教科書は主教材と副教材の二種類を使用する。 授業開始当初は副教材を用い、基本的な英語の聴解とディクテーション、適宜発音指導を行い、採点結果を出席した証拠として回収するとともに、提出物として平常点に加算する。 主教材は、主に現代日本の時事に関するNHK BSのニュースを題材にしたDVD教材。第1回目のオリエンテーションにて受講生のリクエストを募り、以降、そのリクエストどおりに授業を進行させる。教科書にある英作文を課題として課し、提出させる。受講生は主教材付属のDVDを見て、事前に予習をすること。 授業の進行が明確に分かっているので、欠席者は次の授業の準備をすること。DVDを見る装置が自宅にない場合でも、図書館を利用するなどの方策を自分で考えること。教科書は設問に解答するだけでなく、本文の音読を予習や復習に取り入れること。1回視聴して内容を理解出来る程度の復習を前提にします。授業も最終試験も難しいので、常に復習を怠らないように。また、最終試験の評価割合が少ないので、時間外の学習を怠らないように。 定期試験 16回目開講時		
	回	内容	
	1	10/2 オリエンテーション、座席決定、教科書販売、期末試験の仕様発表、講義の心得確認	
	2	10/9 副教材 Unit 1、主教材 教科書 Unit 1、新章へ	
	3	10/16 副教材 Unit 3、主教材 教科書継続、または新章へ	
4	10/23 副教材 Unit 4、主教材 教科書継続、または新章へ		

	5	10/30 副教材 Unit 5、主教材 教科書継続、または新章へ
	6	11/6 副教材 Unit 6、主教材 教科書継続、または新章へ 3-Step CALL 小テスト
	7	11/13 副教材 Unit 7、主教材 教科書継続、または新章へ
	8	11/20 副教材 Unit 8、主教材 教科書継続、または新章へ
	9	11/27 副教材 Unit 9、主教材 教科書継続、または新章へ
	10	12/4 副教材 Unit 11、主教材 教科書継続、または新章へ
	11	12/11 副教材 Unit 12、主教材 教科書継続、または新章へ
	12	12/18 副教材 Unit 13、主教材 教科書継続、または新章へ 3-Step CALL 小テスト
	13	12/25 副教材 Unit 14、主教材 教科書継続、または新章へ
	14	1/8 副教材 Unit 21、主教材 教科書継続、または新章へ
	15	1/15 副教材 Unit 24、主教材 教科書終了
	16	1/29 定期試験 90分、提出物最終締め切り
キーワード		
教科書・教材・参考書		主教材：What's on Japan 8(金星堂) 副教材：Campus Listening(成美堂)
成績評価の方法・基準等		全て主教材より 定期試験60%(単語理解8%、本文内容ディクテーション 14% (部分点あり)、内容理解28%、課題英作文 10% (部分点あり)) 平常点20%(英作文提出と副教材解答結果提出) 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。
受講要件 (履修条件)		教科書を購入し、発音記号が載っている英和辞典を必ず携行して授業に臨むこと。
備考 (URL)		
学生へのメッセージ		DVDを見て、放送を一通り音読で真似てみる程度の事前訓練をしてください。



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 英語科目」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005037	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E1)		
編集担当教員	濱崎 大		
授業担当教員名(科目責任者)	濱崎 大		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	濱崎 大		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）	2E1		
担当教員Eメールアドレス	mohican007@hotmail.com 欠席報告はメールではなく、後日届けを提出してください。		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL	単位に関するお問い合わせは、事務を通して行ってください。		
担当教員オフィスアワー	非常勤講師室在可		
授業の概要及び位置づけ	英語でコミュニケーションを成立させるための様々なスキルを考え、これを実践します。今それぞれが持てる英語力で、最大限のコミュニケーション能力を習得出来るようにします。頭で英文を思い描くために、核となるイメージを養っていきます。また、Group Workを通して、コミュニケーションも豊かにとれるよう積極性を持てるようにします。		
授業到達目標	簡単な日常英会話を躊躇なく運用出来るようにします。		
授業方法（学習指導法）	理解ある同じ受講生とのコミュニケーションは、プレッシャーを軽減する利点があります。受講生同士ペアやグループを組み、その落ち着いた状況で教科書の会話例をもとにテーマに沿って会話を発展させていきます。		
	Text内の、各UnitにはTopicが設けられて基本的なConversationが成されています。そのTopicとConversationを基礎に各自、各グループで考えられるSituationを想定して、Conversationを展開して行きます。日本人に独特な、発音を出来るだけNativeに近いものに修正し、これまで学んできた英語をPracticalなものになるような授業にいたします。 下記には理想的な進行を計画として立てておりますが、クラスの能力によっては進行を遅くする場合も想定されます。		
	回	内容	
	1	第1回 Introduction	
	2	第2回 Unit 1 言語機能別英会話 (1) Group Making	
	3	第3回 Unit 2,3 言語機能別英会話(2),主語として便利なwe,you,they Mid-Term Examinationへ向けてTopicを決定	
	4	第4回 Unit4,5 疑問文のパターン(1),(2)	
	5	第5回 Unit 6,7 助動詞を使った文(1),(2)	

授業内容	6	第6回 Preparation for the Mid-Term Examination 3step 小テスト	
	7	第7回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)	
	8	第8回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)	
	9	第9回 Unit 8 名詞節を使った文(1) Group Making	
	10	第10回 Unit 9 名詞節を使った文(2) Final Examinationに向けてTopicを決定	
	11	第11回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文	
	12	第12回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文 3step 小テスト	
	13	第13回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！	
	14	第14回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！	
	15	第15回 Final Examination, Group Presentation	
	16	第16回 Final Examination, Group Presentation	
	キーワード	脱受験英語 イメージからの英語表現へ	
	教科書・教材・参考書	Let's Make a Skit Presentation (英宝社) 各自持っている参考書、辞書 (英和、和英) この授業では、辞書はかなり重要です。	
	成績評価の方法・基準等	Class Attendance and Participation: 15% 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。 Mid-Term Examination 25% Final Examination 40%	
	受講要件 (履修条件)	全講義出席が原則。ただし、正当な理由で欠席する場合は個人指導を行う。(課外クラブ活動に関しては正当な理由とは認められません。) 講義、演習の妨害行為は大人としてのモラルをもって自重してください。(スマートフォンの操作等) 目に余る場合は、退室及び辞退を申し入れます。 欠席回数 $\frac{1}{3}$ 以上は期末試験の受験資格がなくなります。	
	備考 (URL)		
学生へのメッセージ	中間、期末テストはGroup Workになり、Group内でのコミュニケーションも非常に重要になります。無断欠席、遅刻などは他の受講者にも非常に迷惑をかけることになるので、必ず責任ある態度で講義に望んでください。特に再履修の学生は、この点をよく考えてから決断してください。		



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 英語科目」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005038	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E2)		
編集担当教員	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(科目責任者)	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤本 ゆかり		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-22		
対象学生(クラス等)	(2E2)		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-819-2078 (全学教育事務室)		
担当教員オフィスアワー	金曜日 10時30分より		
授業の概要及び位置づけ	<p>基本的で実用的な英会話の表現を習得し、表現の基礎の定着を図る。話すことと聴くことの技能を身に付ける。暗記をするのみではなく、構文や文法に留意して、基本的な理解力を確かなものにする。語彙を増やし、文法を理解し、表現の感覚を磨く。対話力を向上させ、自分の言いたいことを表現できる豊かな表現力へと応用できる能力を養う。自分の言いたいことを表現できるコミュニケーションに対する意欲を持ち、自主的に話せるようになることを目的とする。英語の歌を通して、英米の文化を学ぶ。</p>		
授業到達目標	<p>基本的・実用的な英文や英会話の表現を覚え、話すことができる。語彙力を増強することができる。英語の構文・文法・表現について理解を深めることができる。美しい発音ができ、リスニングの能力を養う。表現を声に出して述べるができる。基礎を固めた上で、自分が言いたいことを表現できるようになる。語彙を増やし、文法を身に付け、表現の応用ができるようになる。英会話とコミュニケーションに対する関心・興味を持ち、各自が目標を定めて積極的に学習の場を求めていく態度を養う。英語の歌や日常会話を通して、歌の背景や、英米の文化や歴史に対する理解を深めることができる。また、各自の現在の能力をさらに向上させるようにする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>英語のフレーズの詳細な解説を行い、文法と構文、及び表現の指導をする。このことによって、英文を容易に覚えられるようになる。発音の練習をし、表現を声に出して発音する。声に出すことで覚えた英語のフレーズを使用してみる。リスニングの指導を行う。CDを活用し、何度も聴き、リピーティングを行うことで、スキルの定着を図る。</p>		
	<p>英米の歌にみられる英語表現を中心として、重要な英文について、CDを聴きながら、主要な表現・構文・文法の指導を行う。構文や文法を理解することが、会話での表現の習得においても、容易にして有効であるというアプローチを進めていく。英単語の発音の仕方を指導し、練習を行う。文全体の発音についても指導と練習を繰り返し行い、定着を図る。さらに、ダイアログの表現を言えるように練習をし、覚え、ひいては話す能力を養う基礎を固めていく。また、話す能力と聴く能力は表裏一体であるという認識に基づいて、リスニングの方法を説明し、実践してみる。英米の歌とその背景について解説する。歌を通して、英会話とコミュニケーションに対する意欲をさらに持てるように指導していく。</p>		



	回 内容
授業内容	1 10月 3日 導入・授業内容の説明
	2 10月10日 UNIT 4 Puff (The Magic Dragon)
	3 10月17日 UNIT 5 Unchained Melody
	4 10月24日 UNIT 6 Over the Rainbow
	5 10月31日 UNIT 8 Tennessee Waltz
	6 11月 7日 UNIT 10 Dreaming of Home and Mother
	7 11月14日 UNIT 11 Long, Long Ago
	8 11月21日 UNIT 12 Grandfather's Clock
	9 11月28日 UNIT 13 The Last Rose of Summer
	10 12月 5日 UNIT 14 Home on the Range
	11 12月12日 UNIT 15・16 Mollie Darling / I've Been Working on the Railroad
	12 12月19日 UNIT 22・23 Christmas Songs
	13 12月26日 UNIT 17・18 (・19) Foster's Songs (Old Black Joe / Old Folks at Home / My Old Kentucky Home)
	14 1月 9日 UNIT 19・25 Beautiful Dreamer / Londonderry Air
	15 1月23日 UNIT 25・26 Twin Songs (Londonderry Air / Danny Boy)
	16 2月 6日 定期試験
キーワード	英米の歌 / 文法と発音の強化 / 英語表現の容易な定着 / コミュニケーションのための文化の理解
教科書・教材・参考書	『英米人・日本人のこころの歌』(CD付き) (小笠原真司 / ウィリアム・コリンズ: 英光社) 英和辞典(電子辞書)を必携すること。
成績評価の方法・基準等	定期試験80%、課外学習の3-learning 20% (3 Step CALL 10%、Power Words 10%)を基準とします。 【3stepの小テスト実施日程】授業の原則6回目、12回目です。 定期試験を筆記で行います。 課外学習のe-learningに関しては、第1回目の授業の際に説明します。 また、受講中の活動や態度を非常に重視します。
受講要件(履修条件)	授業には全回出席しましょう。発音など声を出しての活動は、積極的に参加することを期待します。必ず予習をして臨んで下さい。
備考(URL)	
学生へのメッセージ	必ず予習をして授業に出席してください。あらかじめ英単語の意味を調べ、大意をつかんでおきましょう。



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 英語科目」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005039	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E3)		
編集担当教員	山田 健太郎		
授業担当教員名(科目責任者)	山田 健太郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山田 健太郎		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養B棟]B-15		
対象学生（クラス等）	(2E3)		
担当教員Eメールアドレス	k-yamada@sun.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業前後		
授業の概要及び位置づけ	視聴覚教材とテキストによるインプットをベースにして、自分の意見を表現する英語力を身につける。		
授業到達目標	TOEIC500点以上の英語力。自分の意見を簡単な英語で表現できる英語力。		
授業方法（学習指導法）	テキスト付属のDVDに収録されたビデオスクリプトを繰り返し見ることで、聴解力をまず鍛え、その上で自習用の教材で表現を補強し、自分が使える英語表現を増やす。課外学習（3 Step CALLとPowerwords）も組み入れてリスニング力・語彙力も強化する。		
授業内容	授業内容（概要） 英語に慣れるために、毎回の授業で英英辞典を使ったクイズ、ビデオ・クリップについての英問英答などを行う。適宜グループ活動を組み入れることで、必ず英語を話す時間が毎回の授業であるようにする。自習用教材として購入する教材と合わせて自分の意見を表現する英語力を身につけ、最終的には簡単な英語によるプレゼンを行う。また3stepの学習状況を確認するために小テストを行う。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション（英英辞典の利用や、リスニング力向上のためのコツなど、英語学習全般について）	
	2	Chapter 1 Language: a road to communication 内容把握	
	3	Chapter 1 Language: a road to communication 表現演習	
	4	Chapter 2 Big Decisions: the less common path 内容把握	
	5	Chapter 2 Big Decisions: the less common path 表現演習	
	6	Chapter 3 Friendship: the simple joys 内容把握 3step小テスト	
7	Chapter 3 Friendship: the simple joys 表現演習		

	8	Chapter 4 Emotional Health: taking care of ourselves プレゼンテーション・スクリプト原稿提出
	9	Chapter 4 Emotional Health: taking care of ourselves
	10	Chapter 5 The World: travel and tradition 内容理解 プレゼンテーション・スクリプト訂正原稿提出
	11	Chapter 5 The World: travel and tradition 表現演習
	12	Chapter 6 Celebration sense of community 内容理解 3step小テスト
	13	Chapter 6 Celebration: sense of community 表現演習
	14	プレゼンテーション その1
	15	プレゼンテーション その2
	16	定期試験
キーワード	ことばの認識を柔らかく、繰り返し、多読・多聴、音読	
教科書・教材・参考書	高山一郎 『大学生のためのビデオクリップ英語総合学習』 松柏社 浦島久 『1分間で自分のことを話してみる』 中経出版	
成績評価の方法・基準等	定期試験40%、積極的な授業への参加度15%、プレゼンテーション25%（中間提出等を含む） 、課外学習のe-learning 20%、（3 Step CALL 10%、Powerwords 10%）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005040	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E4)		
編集担当教員	前川 智子		
授業担当教員名(科目責任者)	前川 智子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	前川 智子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	(2E4)		
担当教員Eメールアドレス	t-mae@asca-iso.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業の前後10分間		
授業の概要及び位置づけ	映画を通して、リスニング力、英語表現・語彙力、スピーキング力の向上を目指す。		
授業到達目標	英語のリスニング力を向上させる。基本的な会話表現を覚え、使えるようになる。映画の内容を簡単な英語で話すことができる。 また、その過程において、英語の語彙力を高め、発音・イントネーションを上達させる。		
授業方法（学習指導法）	DVDは10ユニット（一回当たり10分）に分かれているので、原則として1ユニットを一回の授業で学習する。2～3ユニット終わった時点で復習（リスニングや会話、内容の確認など）を行い、次の場面に進む。授業中の簡単な指示は英語で行うので、リスニング練習の一部と捉え、集中してほしい。教室内では出来るだけ英語で話すことを心がけ、授業時間全体を英語コミュニケーションの時間としたい。テキストの練習問題のほか、各ユニットの映画ストーリーを英語で書いて提出することを毎回の課題とする。各単元の語句問題やストーリーを書くことなどの小テストを、各授業開始時に行うので、遅刻・欠席をしないように。		
	回	内容	
	1	Orientation 教科書販売、授業の進め方、小テストについて、リスニングを向上させるコツ ＜宿題：復習と次回の予習＞	
	2	小テスト Unit 1 「はじめまして、トルーマン」 ＜宿題：復習と次回の予習＞	
	3	小テスト Unit 2 「海が怖い」	

授業内容		<宿題：復習と次回の予習>	
	4	小テスト Unit 1&2 復習  <宿題：復習と次回の予習>	
	5	小テスト Unit 3 「ローレンそれともシルビア？」  <宿題：復習と次回の予習>	
	6	リスニング小テスト（１）、 小テスト Unit 4 「何か変だ」  <宿題：復習と次回の予習>	
	7	小テスト Unit 3&4 復習  <宿題：復習と次回の予習>	
	8	小テスト Unit 5 「脱出計画」  <宿題：復習と次回の予習>	
	9	小テスト Unit 6 「メリル、ドライブしようよ」  <宿題：復習と次回の予習>	
	10	小テスト Unit 7 「父と涙の再会」  <宿題：復習と次回の予習>	
	11	小テスト Unit 5,6,7  <宿題：復習と次回の予習>	
	12	リスニング小テスト（２） 小テスト Unit 8 「クリストフが明かす制作秘話」  <宿題：復習と次回の予習>	
	13	小テスト Unit 9 「トルーマンが消えた」  <宿題：復習と次回の予習>	
	14	小テスト Unit 10 「僕はだれ？」  <宿題：復習と次回のC予習>	
	15	小テスト Unit 8,9,10  授業のまとめと復習	
	16	期末テスト	
	キーワード	リスニング、スピーキング	
	教科書・教材・参考書	『The Truman Show』（松柏社）	
	E-Learning [リスニング小テストを含む] (20%)		

成績評価の方法・基準等	教科書小テスト (40%) 期末テスト (40%)
受講要件 (履修条件)	全回出席が原則。正当な理由があっても、欠席が5回となると失格する。
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	毎回宿題 (その週の復習と次回の予習)を出すので、それを行った上で授業に臨むこと。第2回目以降毎週、授業の初めに小テストをするので遅刻・欠席をしないこと。DVD観賞中の出入りは他学生の妨げになるので、その間入室を遠慮してもらうこともある。

